

経済学部 海外教育 プログラム 体験談集

<注意> 本冊に記載の内容は参加当時のものです。
今年度プログラムの内容とは異なる場合があります。

< 発行：2020年3月 >

<経済学部の海外プログラム一覧>

★海外アカデミックプログラム★

<短期>

国	派遣先	募集時期	実施時期	ページ
オーストラリア	ホーソン・メルボルン英語学校	4月下旬	8月中旬～9月下旬(約5週間)	P.1～
アメリカ合衆国	ポートランド州立大学	4月下旬	8月上旬～9月上旬(約4週間)	P.7～
ニュージーランド	マッセイ大学	9月下旬	2月中旬～3月中旬(約4週間)	P.12～
中国	東北財経大学	9月下旬	2月中旬～3月中旬(約4週間)	P.19～

<長期>

国	派遣先	募集時期	実施時期	ページ
中国	大連外国語大学	4月下旬	1学期間：8月下旬～翌年1月上旬 2学期間：8月下旬～翌年7月上旬	P.23～
		9月下旬	1学期間：2月下旬～7月上旬 2学期間：2月下旬～翌年1月上旬	

★海外フィールドワークプログラム★

国	派遣先	募集時期	実施時期	ページ
タイ	コンケン大学	4月下旬	8月中旬～下旬(約2週間)	P.29～
中国	上海対外経貿大学	4月下旬	9月上旬～9月中旬(10日間)	P.36～
イギリス	フランシス・キング語学学校	9月下旬	3月上旬～3月中旬(約2週間)	P.44～

★海外インターンシッププログラム★

国	派遣先	募集時期	実施時期	ページ
アラブ首長国連邦	アブダビ石油株式会社アブダビ鉱業所	4月下旬	8月下旬～9月上旬(10日間)	P.53～



各プログラムの詳細は、応募受付期間中に経済学部事務室で配布、または経済学部ホームページに掲載の募集要項をご覧ください。

manaba+R → 「経済学部生のページ」 → 「留学・外国語学習 コンテンツ」
→ 「海外留学プログラム【学部独自プログラム】」

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/ec/kaigai/renewal/Renewal%20page.html>

過年度参加者の体験談、アンケート結果も掲載しています。



プログラム名 < ホーソン・メルボルン英語学校 > ①

国・都市名： オーストラリア（メルボルン）
名前： 綿村 蒼
専攻： 国際専攻
参加時回生： 1回生
参加時期： 2019年8月17日～9月22日

1. プログラム参加を決めた動機

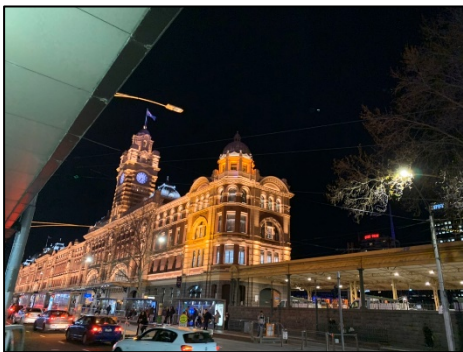
まず、自分が留学して学びたいことは何か、ということを考えました。考える中で、まずは英語力を高めること、それと初対面の人とコミュニケーションが取れることが必要なのではないかと感じました。学校の英語の授業ではどうしても日本語を話してしまいますし、英語を使う機会には限界があります。長期の留学に行く前に短期の留学も経験しておきたいと思ったのも大きな理由でした。そして知らない人と話す時、少し緊張してしまう悪い癖を直すのにもちょうど良い機会だと思いました。その中で夏休みのプログラムの中で最長なもの且つ、一度行って見たかったメルボルンでもあったことから、このプログラムに参加することにしました。

2. 授業・実習の内容

五週間のうち、最初の二週間は立命館大生を2グループに分けて授業が行われました。その中では四技能全て含まれていました。宿題も出たりしたので、ホストファミリーの家に帰ってからも英語の課題をやっていました。最初のうちは英語の授業が難しいと感じることもありましたが、次第に理解できるようになっていきました。一度楽しいと思うと、オーストラリアでの学校生活はとてもいいものだと感じます。

残りの三週間は実力別に分けられているクラスに混ぜてもらえます。そのクラスには様々な国から来た、色々な年齢の生徒がいました。授業では自国の祭についてプレゼンをするなど、国際理解にも役立ちました。

3. 生活（授業・実習以外の様子）



まず、とても寒いです。オーストラリアでは光熱費が全体的に高いため暖房はあまり使いません。そのため家の中でもダウンジャケットを着たりしています。防寒対策はしっかりしないと風邪を引いてしまいます。また、朝昼の寒暖差が非常に大きいです。分厚いコートを持っていくよりかは、重ね着の方がいいと思います。

次に食事です。家庭によって本当にまちまちなので何も言えません。ほぼ毎日パスタの家もあれば、週に一回（金曜日）はご馳走が出る家もあります。タイ米に関しては苦手と感じる人が多かったですが、ちゃんと言えれば対応してくれる家がほとんどだと思います。また、朝食と昼食は自分で作るという家もあります。冷蔵庫を使うことは基本的にOKな家がほとんどなので、料理のレパートリーを持っていれば楽しめると思います。ちなみに僕は毎朝（めんどくさいと思った時は前日の夜の内に）サンドイッチを作ったり、夕食の余りをもらっていました。

オーストラリアでは18歳から成人なので、家の鍵を預かることになります。基本的に自由です。門限などもない家が多いです。ただしその分自分の責任が大きく伴います。自由だからって羽目を外すことなく、常識の範囲内で楽しめればいいと思います。

交通に関しては、トラムという路面電車が走っていることもありかなり便利です。また、Google mapが発展しているため、家の住所さえわかれば道案内をしてくれます。トラムや乗り場まで分かります。そのためネット環境を手に入れば、迷うことはないかと思っています。

治安は悪くありません。ただ明らかに危険だと思った所はいくつかありました。単独行動はできるだけ避け、友達と行動することをお勧めしたいです。昼間でも暗いところや路地には入らない方が良いでしょう。

4. 現地での交流の状況

生徒同士基本的に仲が良いです。そのため昼休みや放課後にカフェテリアなどで話している姿はよく見ました。たまに立命館大学以外の日本人生徒もおられるので、彼らを経由した知人も増えていきました。最初は立命館大生だけで固まると思いますが、次第に色々な人と話せるようになります。人種同士で何かトラブルがあったとは聞かなかったですし、英語を学びたい人同士なのでお互い気兼ねなく話すことができたと思います。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

積極的に自分から話しかけることがいかに重要かを理解できました。例えば、私のホストファミリーはオーストラリアフットボールのファンで、毎週末は必ずと言っていいほど試合をテレビで見っていました。ルールは当初よくわからなかったので質問をたくさんしました。もちろん調べればわかるし、日本語で読んだ方が勘違いもほぼないと思います。しかしそれは意味があまりないと思ったので、自分で聞いて理解することに努めました。他にもカフェの情報などは、自分たちで調べたものもありますが、英語学校の先生やホストファミリーに聞いて行った所もたくさんあります。別に間違えたってかまわないと思います。僕も質問の意味を勘違いし会話を成り立たせなくしたことが何回もありましたし、聞き間違いや勘違いで間違えた場所に行ってしまったこともありましたが、それもいい経験になりました。誰かが話しかけてくるのを待っているのは時間だけが過ぎて行ってしまいます。どんなことでも聞いてみる、そう心がけることを学べたと思います。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

サークル活動をしていない僕にとっては、新たに多くの方と知り合ういいきっかけになりました。また、現地の学校の生徒は、一人一人違う志や目的を持っていました。国籍や年齢、英語のレベルなど全て異なる状況でしたが、今後英語を学んでどうしていきたいのかなどを話したりすることができました。その中で沢山の刺激を受けました。同年代の他国の人は、どんなプランを立て、そのためにどんな努力をしているのかを知る事ができたのは、いいきっかけとなりました。英語の能力だけではない、実際に話さないとわからないことを学ぶことができました。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス



やってみたいという気持ちがあるなら、行って後悔することはないと思います。確かに日本米が食べたいと言ったような、ホームシック症状みたいなのが出ることもあるかも知れません。ですが、1人で行くわけでもなく、周りには仲間がいます。支えてくれる人はいるので、安心していいと思います。

気になる事として、スマホは使えるのかどうか、は結構大きな問題なのではないかと思ったので説明しておきます。ホームステイ先には Wi-Fi があるものの日本よりかなり弱いです。では外出時はどうなのかというと、結論から言うとかなり安く使えます。現地で短期滞在用の SIM カードが売られています。ギガ制限がやたら大きいので足りないと言うことはまずないと思います。インスタなども勿論使えるため、ネット環境についての不安は必要ないです。最悪分らないことがあれば、沢山ショップがあるので質問することもできます。英語を練習する良い機会だと思えばいいと思います。

カフェは沢山あり、クラスメイトや先生に聞けば沢山教えてもらえると思います。観光客向けのお店もあれば、現地人向

けの穴場レストランもあります。カフェ系で言うと、「short stop」と言うドーナツ屋さんがあり、何回も訪れてリラックスしていました。週に二回くらい、ご褒美にと言う形でした。レストランでは「universal restaurant」と言うお店がお勧めです。コスパ最高のお店でした(量が少し多いので注意)。平日の午後は、人が少ないので観光するのもいいと思います。ビーチは晴れているとすごい綺麗でした。いくつかビーチがあるので、調べて散歩してみると面白いと思います。

プログラム名 < ホーソン・メルボルン英語学校 > ②

国・都市名： オーストラリア（メルボルン）
名前： 下西 みのり
専攻： 経済専攻
参加時回生： 1回生
参加時期： 2019年8月17日～9月22日

1. プログラム参加を決めた動機

小さい頃から英語が好きで大学生になったら留学をしたいと思っていました。しかし長期の留学はハードルが高く、短期の留学から始めてみたいと思いこのプログラムに応募しました。他にも沢山プログラムがある中でこのプログラムを選んだ理由として、英語圏かつ費用が安いことでした。5週間で30万円はとても魅力的でした。またこのプログラムは英語学校に通い、それぞれのレベルにあったクラスに配属されます。周りの人たちも自分と英語力が同じレベルの人々になるので、英語が全く聞き取れずついていけないということはあまり起こりえないだろうと思い、参加を決めました。

2. 授業・実習の内容

ホーソン・メルボルン英語学校は reading, writing, speaking, listening の力すべてを向上させようという理念があります。



最初の2週間は立命館大学の生徒のみでクラスが作られ授業が行われました。日本の授業とは大きく違い、話し合いの時間が多くありました。Reading は大学の授業よりも易しく感じましたが、listening はかなり難しかったように思えました。3週間目からはそれぞれのレベルに合わせて、いろんな国の人たちとの混合クラスになりました。ここでも基本的には最初の2週間と授業内容は変わりませんが、海外の人との会話なので英語しか使えず、コミュニケーションがとても大変でした(当たり前ですが(笑))。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

学校からメルボルンシティまで tram という路面電車に乗って 30 分ほどで着きました。授業は 13 時までなので放課後は多くの時間がありました。放課後は学校の図書館で勉強したり、シティへ遊びに行ったりと選択肢は沢山ありました。メルボルンは 3 大バーガーという有名なハンバーガー店が 3 つあるので、全部食べに行ったり、歴史的な建造物を見に行ったりと充実した日々を過ごすことができました。

4. 現地での交流の状況

3週間目からインターナショナルクラスに参加し、いろんな国の人々と知り合うことができました。また授業の中で、クラス全員でバスに乗って遠足に行ったり、放課後カフェテリアで話したりと交流する機会は沢山ありました。またクラスメイトでなくとも友達のクラスメイトと話していて自然に仲良くなるなど、自分次第で学校に通う全員と友達になることもできます。ホームステイ先では毎日今日学校で何をしたか、放課後どこに行ったかなどを気さくに聞いてくれたので、家に帰るのが楽しみでした。今でもホストマザーとはメールのやり取りをするくらい仲良くなりました！

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと



この留学で speaking 能力は確実に向上したと思います。日本では英語の授業中であっても、発言やディスカッションをする機会は少ないです。しかし現地では自分の意見を言うこと、意見を持つことが求められ、その機会が多くありました。またディスカッションでは外国人は日本人と違い、自分の意見を曲げることはあまりないということを知り、反論されても動じないメンタルを作ることができました。生活面においては、オーストラリアは朝活をする人が多いという印象を受けました。私は今まで早起きするのは苦手でしたが、この留学で朝活を経験し今では朝方人間になりました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

生活面においては、最初から知った人たちがいることがとても心強かったです。まったく文化の違う世界に行き、初めは不安と焦りでいっぱいでしたが、同じような状況の仲間がいることでお互いに助け合うことができました。勉強面では、ホーソン・メルボルン英語学校は能力に応じてクラス分けされるので、「留学に行ったけど英語に全くついていけず帰国の時期になった」ということは基本的にありません。それぞれがそれぞれのペースで着実に英語力を伸ばすことができるプログラムだったと思います。そして授業中は話し合いの時間がたくさんあったので、speaking 能力向上につながり、英語を話すことへの戸惑いがなくなったように思います。



7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

このプログラムは語学力向上に加え、自分次第で様々な経験ができます。5 週間という期間なので、長期留学や語学留学を考えている人だけでなく、海外に興味がある、海外で少し生活してみたいと考えている人にもおすすめのプログラムです。

プログラム名 < ホーソン・メルボルン英語学校 > ③

国・都市名： オーストラリア（メルボルン）
名前： 澤田 陸央
専攻： 経済専攻
参加時回生： 1 回生
参加時期： 2019年8月17日～9月22日

1. プログラム参加を決めた動機



私は高校1年生の夏、ボーイスカウトの世界大会に参加し、多くの国や地域のスカウト達と交流を深める中で、世界の他文化に興味を持つようになり、いつか海外に長期留学に行こうと思いました。大学に入学してからは、BKC の国際寮や BBP に通ったり、積極的に TOEIC を受験したりして、徐々に英語に慣れていこうと思い行動していました。今回は、長期留学の参加に向けての通過点として、経済学部のホーソン・メルボルン英語学校プログラムに参加しようと思い、応募しました。また、多文化共生社会で、世界で最も住みやすい都市とも言われるメルボルンにてホームステイすることにも魅了されました。

2. 授業・実習の内容

英語のレベルによってクラス分けがあり、1クラス15人くらいのクラス編成で、内容は主に先生がトピックを提示しながらのグループディスカッションが多かったように思います。授業は reading、listening、writing、speaking を全て扱う内容で、ペアでコミュニケーションを取る機会も多く、発言力が求められました。また、最後の3週間で Upper クラスでは CEFR B2 レベルのテキストと共に授業が展開され、私にとっては見慣れない単語も多く、少し難しいと感じることもありました。しかし、クラスは似たような英語力を持つ学生で構成されているので、ディスカッションを通してみんなで答えを導き出していく形式の授業でした。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

私のホームステイ先には、アイルランド出身のマザー1人と中国人留学生2人がいました。オーストラリアは水不足の国ということもあり、マザーはかなりの環境保護者で、水や電気の節約を家のルールとして徹底されていました。はじめは厳しいルールだと感じていましたが、しっかりと守ることで環境保護の大切さを理解することができ、マザーからの信頼も得ることができました。中国人留学生の2人とは、晩ご飯を食べたあと毎日2時間ほど、日本と中国の大学受験制度や、文化の違い、また過去の戦争についても、漢字を使いながら英語で話したりしました。彼らは、メルボルンの別の大学に通う留学生だったので、私は時々授業終わりに彼らの大学に遊びに行ったり、彼らの大学の友達らと餃子パーティーをしたりして過ごしました。

また、休日には同じ立命館の学生と観光したり、授業内で先生がおすすめてくれたレストランやカフェなどを巡りました。メルボルンは、公共交通機関も整っていて、比較的治安も良く、生活するのにとても過ごしやすかったです。



4. 現地での交流の状況

私は、15年間続けているピアノを活かして、メルボルン市内に設置されてあるストリートピアノを巡りながら、同じピアノを趣味にしている演奏者や、ストリートピアノの演奏を聴く人々に、ほぼ毎日積極的にコミュニケーションを取りに行きました。5週間で、中国人、オランダ人、デンマーク人、ポーランド人、サウジアラビア人の方々とストリートピアノを通じて知り合うことができ、ピアノを弾き終わった後、夜一緒にご飯を食べに行ったりして、交流を深めることができました。さらに、英語学校では5週目の昼休み後に、授業クラスの学生と先生の前で体育館にあるピアノを演奏する機会もあり、言語だけでなく音楽を通じて交流をすることができました。



また、私は日本でボーイスカウト活動を続けていることもあり、留学直前に現地オーストラリアのローバースカウトに連絡を取り、留学中4回ほど彼らのボーイスカウト活動に参加しました。メルボルンで5週間留学していた間、私がオーストラリア人と交流できたのは、このボーイスカウト活動でのみでした。オージー英語に触れられる貴重な機会でしたが、ほとんど理解することができず、私と話す時はゆっくり分かりやすい英語で話してくれました。オーストラリアでのボーイスカウト活動参加は、お互いのスカウティングを知ることのできるとても刺激的な交流でした。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

最初は、英語を話すことに少しためらいを感じ、授業の中でも自分自身の文法の正誤などにとらわれ、英語を話す自信がありませんでした。しかし、本当に大切なことは、文法や発音を気にすることではなく、自分の気持ちや意見を素直に簡単な英語で相手に伝えることだと気づいてからは、私の留学の過ごし方は大きく変化しました。どんな小さなトピックでもい

いから英語で会話を試みることで、国際交流をさらに気軽なものだと捉えることができました。

また、私が印象に残ったことはオーストラリアの大自然を身近に感じたことです。滞在中、野生のコアラやカンガルーを道路脇で見ることができ、グレートオーシャンロードとブルーマウンテンを訪れた際には自然の広大さに圧倒されました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

プログラムに参加したことで、格段に英語力が伸びたわけではありませんが、日本に帰国してからも長期留学に向けて英語を勉強し続けようと思える、とても良いきっかけになりました。英語学校では、様々な国、世代の学生と授業を受け、文化や宗教の違いを授業の中で触れることができ、日本では得ることのできな



い貴重な経験になりました。また、ホームステイ先での食事やマザーの人柄にも恵まれ、快適な生活を送りながらメルボルンを満喫することができました。さらに、オーストラリアは多民族国家のためいろんな国籍の人々と知り合うことができ、今でも WeChat や Instagram を通じて連絡を取り合っています。私は、ホームステイ先で一緒だった中国人留学生 2 人と 2019 年の年末年始に中国の西安にて再会し、食事や観光に連れて行ってくれたりして 1 週間ほど中国に滞在しました。また、ストリートピアノで出会ったポーランド人とデンマ

ーク人は 2020 年に京都に会いに来てくれる予定です。

メルボルンで知り合えた外国人と留学後もさらに交流を深めることができ、本当にこのプログラムに参加して良かったと思っています。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

メルボルンでの 5 週間の留学は本当にあっという間です。1 日 1 日を充実して過ごすには、どんな些細なことに対しても積極的に行動し、全力で楽しむことが必要だと思います。このホーソン・メルボルン英語学校プログラムでは、その機会がたくさんあるので、ぜひ自らの行動力を大切にしてください。また、学部からの短期留学のため、平日の授業や休日に観光する際も、日本人と固まる機会が多く、英語を話す機会がうまく取れないことがあるかもしれません。しかし、現地の人、外国人と特技や趣味などの共通のツールでコミュニケーションをとることで、英語学校以外でも、違った 5 週間を作り出すことができます。英語学校以外でも、メルボルン中にたくさんのコミュニティが広がっているので、5 週間を無駄にせずに過ごしてください。そして留学に行き悩んでいる人も、自分自身を見つめ直し成長できるチャンスなので、ぜひメルボルン留学に応募してみてください。参加して良かったです！



プログラム名 < ポートランド州立大学 > ①

国・都市名： アメリカ合衆国（ポートランド）

名前： 篠田 歩実

専攻： 国際専攻

参加時回生： 1回生

参加時期： 2019年8月6日～9月1日

1. プログラム参加を決めた動機



大学入学前から留学に行きたいという気持ちがあり、経済学部の短期留学プログラムに興味を持ちました。その中でこのプログラムを希望したのは、ホームステイと寮生活のどちらも経験できるという点に魅力を感じたことです。また、夏期休暇中であつたので応募しやすかつたです。ポートランドという街のことは知らなかつたけれど、アメリカで住みたい街 No.1 だと知つて、行つてみたいという気持ちがより高まりました。

2. 授業・実習の内容

午前中はビジネスの授業があり、マーケティングを学びました。課外授業として、味の素、Intel といった日系企業を訪問し、その地で働く日本人の方々とお話を通して、自分の将来について考える良い機会になつたと思います。習つたことをもとに、グループごとに自分たちで新しくビジネスを考え、それについて発表を行いました。午後はアメリカの文化に関する授業がありました。この授業は日本での授業形式とはかけ離れたもので、みんなで英語で議論したり、ゲームのようなアクティビティを通して文化を学んだり、街の人にインタビューする課題がありました。先生はとても熱意のある方で、考えること、自分の意見を英語で述べることを求められました。初めは少し戸惑いもあり、大変だと感じたこともありましたが、毎日いろんな新しいことを吸収することができて、とても充実してました。



3. 生活（授業・実習以外の様子）

ホームステイ期間中は、ホストファミリーと映画を観たり、周辺のお散歩をしたり、教会について行ったり、BBQ をしたりして楽しむことができました。寮生活では、放課後に買い物やご飯に行ったり、自分たちで予定を立てて自由時間を過ごすことができました。大学周辺にはカフェやアイスクリーム屋さんがたくさんありました。電動スクーターが街中で気軽に借りられるので移動も楽しかつたです。街の人はとても親切で、ポートランドはとても平和で安全な街だということを実感しました。

4. 現地での交流の状況

私たちのプログラムを担当してくれた現地のスタッフの方、先生方、学生さんはみなさん本当に親切でした。特に、学生の2人は休みの日にいろんな所へ連れて行ってくれて、たくさんお話しして仲良くなることができました。彼らのサポートのおかげで私たちは快適に楽しく過ごすことができたのだと思います。次に彼らが日本に来たら、自分たちが案内してあげたいし、これからも交流を続けたいと思っています。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

自分自身がモチベーションを保って、このプログラムに対して積極的な姿勢でいることが大切だと気づきました。そういうことを心掛けることで、いい経験ができ、たくさん学ぶことができたのだと思っています。英語力も、ポートランドに来て初めの頃よりも少しは成長したように感じます。特にリスニングとスピーキングは日本で生活しているよりも鍛えられると思います。また、グループのみんなでたくさん準備したり、練習したりしてプレゼンの工夫の仕方などが身についたと思います。日本での普通の授業でも、英語でのプレゼンの機会は多いので、この研修で学んだことはこれからも生かしていきたいと思っています。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

とにかく毎日が楽しくて充実していたことです。語学だけでなく、コミュニケーション力や積極性など自分を成長させることが出来ました。授業などほとんどの時間を一緒に過ごした、このプログラムに参加したみんなと仲が深まったことも良かったです。



7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

高い英語力がなくても楽しめるので、誰でも気軽に参加しやすいプログラムだと思います。自分たち次第で、行きたい所に行くことができるので、楽しい自由時間を過ごすことができます。短い期間ではありますが、とても有意義で濃い1ヶ月でした。ポートランドは全然雨も降らず、湿度も低くて涼しいのでとても過ごしやすいです。一回生の夏季休暇の半分の期間をポートランドで過ごせて良かったと思っています。

プログラム名 < ポートランド州立大学 > ②

国・都市名： アメリカ合衆国（ポートランド）
名前： 山内 静恵
専攻： 国際専攻
参加時回生： 1回生
参加時期： 2019年8月6日～9月1日

1. プログラム参加を決めた動機

自分の日常生活における英語のレベルを知るためと、長期留学に備えて、自分が海外に適應できるのかを知るために、本プログラムへの参加を決めました。

2. 授業・実習の内容

正直なところ、大学で英語の授業を受けている感じでした。ただ違いとしては、先生方との距離感が近いということを挙げることができます。先生方がフレンドリーなおかげで私たちも発言がしやすかったです。授業は経営と英語の二つの授業があり、最後の週には班に分かれてプレゼンやスキットがあり、これらの準備のためにどの班も多くの時間を割いていましたが、そのおかげで留学メンバー同士の距離が縮まり、より濃い思い出になったと感じます。



3. 生活（授業・実習以外の様子）

9時から15時までは土日以外ほぼ授業があり、15時以降は自由時間でし

た。ポートランドには食事できる場所が多いため、色々なものを食べることができました。また、街の風景が日本と異なるため魅力的で、どこに行くか決めることなく歩いたりもしました。一番海外っぽいなあと感じたのは、夜にパイオニアスクエアという広場で『ボヘミアン・ラブソディ』の映画を観たことです。一日自由行動の日には路面電車やバスを使ってシアトルや動物園に行ったり、向こうの学生が海やアウトレットモールに連れて行ってくれたり、とても充実した日々を過ごせました。

4. 現地での交流の状況

外国人との交流は少ないと感じました。理由は三つあり、一つ目はポートランド州立大学が夏休みのため現地の学生がいなかったこと、二つ目はホームステイが一人ではなくもう一人学生がいたことです。もちろんそのおかげで助かったことも多かったのですが、英語のスキルを伸ばしたければ、ホームステイは一人を希望するのが良いと感じました。最後の一つは寮生活になってからは立命館メンバーとばかりと過ごしていたからです。結局私が英語を使ったのは、ホームステイと大学の授業と買い物の時くらいだったと感じます。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

印象に残ったというよりも、日本と違うなと実感したことが二つあります。一つ目は、みんなフレンドリーであるということです。日本よりも他人を幸せにしようと行動する人が多いと思いました。二つ目は、ホームレスが多く、大なり小なり衝突が多かったということです。ポートランドがホームレスに優しい町であり、政治的な表現の自由が比較的許されていることが原因に含まれますが、それが良くも悪くも作用しているのだと思いました。留学中に起こった大きな衝突として、トランプ派 VS 反トランプ派の暴動が挙げられます。安全面は確保されていましたが、ツイッターなどにも様子がアップされるほど激しい時もあったようです。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

価値観が広がり、英語でも実生活でもモチベーションアップに繋がったことは本当に良かったと思っています。実は留学している間は、「日本にいてもできるのではないか」と思うこともありましたが、いざ日本に帰ってくると発見が多くありました。日本とは違う環境で生活して初めての経験が多くてきたことにより、自分を高めるために自分にできることがまだまだたくさんあることが分かりました。私はそのことが留学して何より嬉しく、最も大きな収穫だと思っています。そのため今は頑張りたいことが多く、しかも大学生という存分に頑張れる状況にあるため、頑張りたいと思っています。



7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

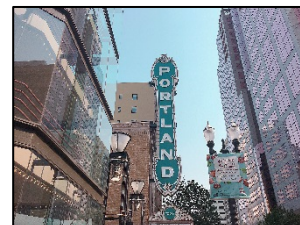
ここまで述べてきた中で、英語に関してこのプログラムをマイナスに受け取った人がいるかもしれません。しかし私はマイナスではなくプラスに捉えています。その理由を説明するにあたって、まず私がこのプログラムに応募した二つの理由を説明します。一つ目は海外の環境に適応できるかを知るため、二つ目は自分の英語のレベルを知るためです。一つ目については、私は二回生の後期から欧米かヨーロッパへの長期留学を考えており、一度も海外に出たことのない私にとってアメリカで行われるこのプログラムへの参加は、海外の環境に適応できるかを知るために価値があると思いました。次に二つ目については、前述の通り、来年度の留学を考えていますが、私はその長期留学の期間に、英語の能力を日常生活レベルにまで上げたいと考えています。その長期留学をより有効活用するために今からの英語の勉強も頑張りたいと思っています。しかし今の私の英語レベルや目標とするレベルが日本にいるままでは分からないため、勉強のモチベーションも上がりませんでした。しかしこのプログラムに参加しアメリカで生活することによって、自分の英語レベルを認識すること、目標とするレベルを以前よりも具体的にイメージすることができました。私は特にリスニング能力が低いことを痛感し、これ

から力を入れていこうと思いました。

以上の理由により、私にとってこのプログラムはとても価値のあるものであり、皆さんにとっても目的を明確にして行けば、大きな収穫を得ることのできるプログラムだと思います！

プログラム名 < ポートランド州立大学 > ③

国・都市名： アメリカ合衆国（ポートランド）
名前： 岩本 桜子
学科： 国際経済学科
参加時回生： 3回生
参加時期： 2018年8月4日～8月30日



1. プログラム参加を決めた動機

大学で絶対に一回は留学がしたい！とずっと考えていました。本当は長期留学に行きたかったのですが、いろいろあり気づいたら三回生になってしまい、今年しかない！と探していたところ、このプログラムを知りました。海外でどこ行きたい？と聞かれたら迷わずアメリカで、昔からアメリカには憧れていたのが一つ目の理由です。二つ目の理由はプログラム内容です。ホームステイと寮生活の両方を経験することができる点で、自分がより成長できるであろうと考えたと同時に、他のプログラムにはない魅力を感じました。また勉強以外にも、観光地に行って自然を感じることができ、アウトドアのアクティビティでは文化を肌で感じることができ、アウトレットに行ったらたくさんお買い物ができる機会がある点も私には強い決め手でした（笑）。最後に、ポートランドと検索すると、「アメリカで住みたい街 NO.1」に選ばれていることを知りました。そしてポートランドという地に行ってみたくと思ったことが三つ目の理由です。

2. 授業・実習の内容

毎日の授業は、はじめ正直大変でした！文化の授業では普段使わない脳をフル活用している感じで最初は私も含め、みんな疲れた様子でした。ですが、何よりも先生がとても熱心に授業をしてくださっていて、たくさん吸収しようという意欲が湧きました。たまたま、大学の外に出て通行人に質問しに行くという時間もあって、自分たちの積極性が試される良い経験ができました。ビジネスの授業では、自分たちでビジネスを一から考え、最終的にそれについてプレゼンテーションしました。一からビジネスをはじめることの大変さ、ワクワクさを学びました。プレゼンテーションをするまでの準備が結構大変で、夜みんなの部屋に集まって練習したのが懐かしいです（笑）。

課外授業では、味の素やインテルといった日系企業を訪問し、職場体験などを通して、働いている日本人の方たちとたくさんお話できる機会がありました。彼、彼女たちがなぜここで働いているのかなど、一人ひとりの考えや価値観に触れることができました。はじめは大変だと感じていた授業も、進むにつれて満足感が増していき、今では楽しかったと自信をもって言えます！

3. 生活（授業・実習以外の様子）

ホームステイも終わり、寮生活になると自由な時間が持てるようになり、どう過ごすも、どこに行くのも自分次第です！！大学が市内にあるので、放課後はすぐにダウンタウンに行ってお買い物やカフェに行ったりすることができました。映画館にも二回ほど行きました。アメリカだけなのかは分からないのですが、映画館の座席に足掛けがあって、背もたれもどこまで下げられるの？ってぐらいで、みんなほほ寝る態勢で映画を楽しむことができました。もう快適すぎてさすがアメリカ…と

思いました(笑)あと、ポートランドの街中には至るところに NIKE の文字があり興奮しました。一人でぶらぶらしても平気なほど、ポートランドは本当に安全で、人もあたたかかったです。

4. 現地での交流の状況



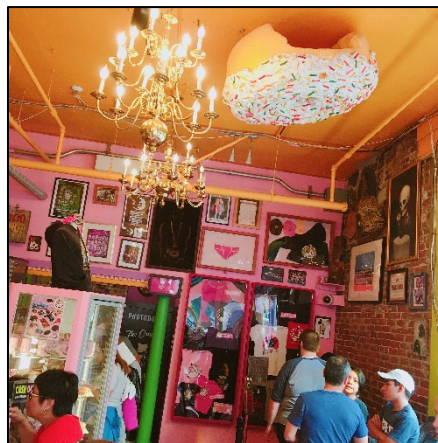
現地のスタッフさんたちはみんな本当に親切で、親切すぎて、他のどのプログラムよりもしっかししているのではと思うほどでした。授業中には、大学の生徒数名が来てくれて、みんなでピザを食べて面白い話をたくさんしました。また、私たちの担当であった二人の学生とは本当に親しい関係を築くことができました。寮でみんな一つの部屋に集まってホームパーティーをしたことも良い思い出です！帰国後も連絡を取り合って、そのうちの一人とは日本で一度遊ぶこともありました。国境を越えてたくさんの人と交流して、友達もできたところは本当にこのプログラムの良いところではないかと思えます。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

この留学を通して私は以前よりも語学力がアップしたというよりも、自分がいろんな面で成長できたことが良かったと思います。みんなの思いや考えを積極的に上の人に提案したことにより、アウトレットに二回行けたということは自分の積極性を活かせたなと思いますし、寮生活では周りのみんなと協力しながらも、自分の生活力を鍛えることができたと思います。また、ホストファミリーや現地の先生、学生、そしてポートランドで働く日本人の方たちとお話して、いろいろな考えや価値観に触れることにより、自分の視野も広がって、それが成長に繋がりました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

一言でいえば本当に楽しかった記憶しかないことです！はじめての寮生活では、食材からお料理グッズまで全部自分たちで購入するところからスタートして不安もありましたが、料理が全くできない私が、ちょっとでもごはんを作れるようになったことは成長できたな～と思います。学校の授業もとても充実したカリキュラムで、最後のプレゼンテーションも、今までで最も記憶に残るプレゼンテーションとなっています。いろんな人に出会って、いろんな所について、そして多くのことを学ぶことができ、成長できたことが良かったです。大好きなお買い物もこれでもかってぐらい楽しめました！アウトレットは本当に安くて、友達も私もブランドバックを三つぐらい買いました。ポートランドは、行ってみると本当に住みやすい街で人もみんなフレンドリーで安全で良いところでした！「アメリカで住みたい街 NO.1」なだけある！と思えました。



7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

この留学プログラムは、普段はしっかり勉強してお休みの日には観光地を訪れたりショッピングを楽しめたりと旅行に近いことも体験できます。勉強も遊びも何でも積極的に！楽しんで生活することが一番大切だと思います！また、留学に行かれるみなさんには現地で日記を書くことをおすすめします。私は携帯のメモのアプリに寝る前にぼちぼちと打っていました！日記用ノートを持って行っていたのですが、毎日楽しみすぎてかクタクタで書くことを諦めました(笑)。今読み返すと本当に懐かしくてまた行きたい！と思えます。何よりもオススメポイントは、やはり後半の寮生活です。自由な時間が持てるようになるので、自分のやりたいことを思う存分楽しんでください！

プログラム名 < マッセイ大学 > ①

国・都市名： ニュージーランド（オークランド）
名前： 渡川 泰成
専攻： 国際専攻
参加時回生： 2回生
参加時期： 2019年2月1日～3月3日

1. プログラム参加を決めた動機

私は高校時代に交換留学で1年間カナダに留学していました。そこでの体験は素晴らしく楽しかったので、大学に入ってもう一度留学したいと入学時から心に決めていました。しかし入学してからは、体育会ゴルフ部に所属しているため中々時間を作れず、諦めかけていた時にオフ期間と重なっていたこのプログラムに出会いました。なぜこのプログラムを志望したかという、前回の留学で後悔していた点である「語学力のアップ」というところに、このプログラムが力を入れていると感じたからです。最大の魅力的なポイントは現地でのクラスがレベル別で、様々な国籍の人と一緒に授業を受けられるということです。英語をしっかりと学べるというポイントが魅力です。また、生徒へのサポート体制が整っているところも惹かれたポイントです。マッセイ大学には生徒をサポートしてくれるスタッフが多く、ニュージーランド人だけでなく、日本人スタッフもいるところが心強かったです。マッセイ大学はホストファミリー選びも審査が厳しく、良いホストファミリーに出会えるという点も魅力だと思いました。これらの様々な魅力からこのプログラムの参加を決めました。カナダとニュージーランドはかつて英国の植民地であるという共通点や、自然豊かであるなどたくさんの共通点があるので両国の違いを発見したいというのもこのプログラムに参加を決めることになった動機です。



2. 授業・実習の内容

授業は主に、Reading/Writing、Listening/Speaking、Economicsの3つに分かれていました。言語は午前中に100分×2コマで少人数制の授業でした。授業では和気藹々とした雰囲気の中で様々な工夫があり、苦痛になることなく楽しく受けることができました。参加型の授業なのですぐにみんなと仲良くなることができ、多国籍な交友関係を築くことができました。Reading/Writingでは、基本的な勉強から、グループで物語製作をしたり、グループ対抗のクイズ大会などをしたりしました。Listening/Speakingでは、ディスカッションや演劇など楽しく身につく授業でした。言語は共にテストが毎週あり、しっかり勉強できる環境でした。午後からは、90分間のEconomicsの授業があり、そこでは主にマクロ、ミクロ経済、プレゼンテーションの仕方、レポートの作成などについて学びました。また週に1回社会見学があり、現地の企業を見学でき、ニュージーランドの仕事がどのようなものかを学ぶことができました。授業は少し厳しめでしたが、確実に身についたと感じています。



3. 生活（授業・実習以外の様子）

放課後はクラスのメンバーなどと体育館でバドミントンやバスケなどのスポーツをしたり、大学が美しいビーチの近くにあったので放課後ビーチに行って遊んだりしました。また、大学前のショッピングモールへ行ったり、バスでダウンタウンに行ったりと、充実した放課後を過ごしました。休日はスカイダイビングやジェットボードやゴルフなど様々なアクティビティーをしました。日本ではできない貴重な体験をしました。ホストフ

ファミリーはとてもいい人達で、仲良く一緒に過ごせました。今でも連絡を取り合うようなベストフレンドのような関係です。現地ですぐにできた友達とディナーに行くなど、放課後も英語を使い楽しく過ごせました。とにかく最高に楽しかったです。

4. 現地での交流の状況

ホストファミリーや同じクラスの留学生以外にも、現地の大学生と触れ合うフェスティバルなど様々なイベントがあり、たくさんの国と地域の人と仲良くなれました。人との繋がりが増えることによってたくさんの発見があり面白かったです。私も現地で仲良くなった中国人に誘われて、今度その友達の家に行く予定です。このように、このプログラムは交流が盛んなので多くの留学生や現地の人と友達になれます。帰国後も外国人の友達と繋がりがあることによって楽しさが増えます。もちろん英語を使う機会が増加するのでとても良いと思います。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

印象に残ったことは、同じクラスにいた日本人以外の学生はスピーキング能力に長け筆記に弱く、逆に日本人はスピーキングが苦手、筆記に強いという特徴があることです。

また、オークランドは綺麗で、特にデボンポートからのシティの景色は格別でした。上と右横の写真はデボンポートで撮った写真です。良い思い出になりました。ニュージーランドではみなフレンドリーなのでたくさんの友達ができただけでなく、英語圏で生活することによって、伝える力と積極的に英語で話すことが身につきました。最後にニュージーランドのご飯は不味いものだと思っていましたが、実際はかなり美味しく印象に残っています。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

「楽しかった！」の一言です。楽しかったのでプログラムに参加して本当に良かったと思います。このプログラムはよくできており、遊びと勉強のバランスが取れていると感じました。他の国の友達ができるなど人との繋がりが大きくなることは大きな収穫でした。また、毎日英語に触れていることで少しは英語力が上がったと思います。ホームステイすることによって現地の文化や考え方を感ぜられたのもよかったと思います。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

オモロイから行くべき！ニュージーランドは自然豊かで人があったかいので過ごしやすいです。

プログラム名 < マッセイ大学 > ②

国・都市名： ニュージーランド（オークランド）

名前： 中村 美里

専攻： 国際専攻

参加時回生： 2回生

参加時期： 2019年2月1日～3月3日

1. プログラム参加を決めた動機

私がこのプログラムに参加しようと思ったのは海外の文化を学びたいと思ったからです。海外留学は私にとって3回目です。1回目はカナダ、2回目はイギリスへ行きました。どちらも2週間以内の短いもので、現地の文化について学ぶには不十分な期間だと感じていました。本当は半年間程度行きたかったのですが、教職課程を履修しているため、半年間は断念して、プログラムの中で一番期間が長かったこのプログラムにしました(と言っても、履修状況・科目



や回生など、人にとって状況は違うと思います。教職を履修しながら留学に行きたい人は、まず教職教育課へ確認しに行くことを強く勧めます)。

2. 授業・実習の内容

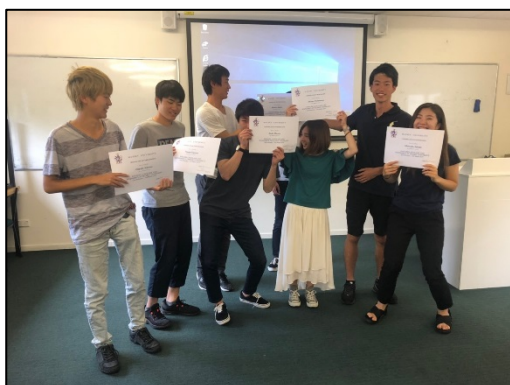
	月	火	水	木	金
午前	Reading & Writing				
	Listening & Speaking				
午後	Economics				企業見学

マッセイ大学に母国語が英語でない人向けの英語の授業が開講されているので、それに合流します。習熟度別クラスになっているので、授業についていけない！ということはありませんでした。一緒に受ける人たちの多くは中国人ですが、私のクラスにはチリ人もいました。授業の雰囲気としてはみんなとも話します(笑)。はじめは周りの皆が話せすぎてびっくりするかもしれませんが、慣れます。母国語が英語ではないので、正しくない発音で話しかけられて、何を言っているのかわからないこともしばしばありますが、それはお互い様だと思います。授業のレベルとしては単語・発音・文法においては大学入試程度のレベルなので特に困ることはないと思います。スピーキングやリスニングにおいては最初の数日間は戸惑いがあるかもしれません。授業時間が少し長めで、ましてや英語なので少し疲れるかもしれません。課題はほぼ毎日出ますが、負担になることはありません。ゆっくりしても1時間かからない程度です。

午後は経済学の授業を受けます。内容は簡単なミクロ・マクロ経済です。先生は私たちが理解するまで簡単な英語に言い換えるなどして説明し続けてくれる、とてもいい先生でした。課題は前半はほぼありませんが、後半になってくるとほぼ毎日ライティングの課題が出ます。少し大変かもしれません。

金曜日の午後は経済学の授業の一環で企業見学に出かけます。これは少し大変かもしれません(笑)。授業の先生たちはゆっくりと簡単な言葉で話してくれるので英語が理解できないことはほぼありませんが、企業見学ではそのような英語は話してくれないし、専門用語も話すので、単語がわからないこともありました。この企業見学で困らないように日々の英語の授業で力をつける必要があると言えます。

3. 生活（授業・実習以外の様子）



私のホームステイ先の家庭は、お母さん・お父さん・お兄ちゃん・弟くん・猫ちゃんの4人と1匹家族でした。家がビーチの目の前にあり、ビーチ近くにはアイスクリーム屋さんやスターバックスもあったので、学校終わりにビーチでのんびりすることもできました。また、学校の近くにはショッピングモールもあったので、学校終わりにはそこに出かけたり、その近くでご飯を食べたりしました。学校には体育館があり、物品を借りることもできたので、皆でバドミントンやバスケットボールをすることもありました。

このプログラムのメンバー全員が仲良しだったので、土日の多くは全員一緒に過ごすことが多かったように思います。皆でシティに遊びに行ったり、自分で予約してアクティビティに参加したりしました。アクティビティ大国のニュージーランドとは言え、何をやるかにもよりますが、万単位でお金がかかるので、アクティビティを楽しみにしている人はしっかりとお金を貯めておいた方がいいかと思います。ニュージーランドはスポーツが盛んで、休みの日にはホストファーザーが朝からサーフィンに出かけたり、みんなで有名なビーチに出かけたり、マウンテンバイクをしに行ったりしていました。スポーツが好きな人にとってはうってつけの環境です！

4. 現地での交流の状況

現地の方は全員とても優しい人ばかりで、移民国家のためか英語が上手く話せなくても、そのことを理解した上で分かりやすい英語を話してくれます。留学するにはとても良い環境だと感じました。また、私はゲームが趣味だったのですが、同じクラスの中国人の男の子とフレンド交換することができたので、今でも交流が続いています。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

留学を決めた当初は英語力の向上は見込んでいなかったのですが、想定外に留学中に英語力を身につけることができるようになったと思います。特に向上したと感ずるのはリスニング能力とスピーキング能力で、最初は聞き取れなかった英語が聞き取れるようになりました。日本で英語を勉強している時は「こんな単語いつ使うん？」と思いながら勉強していましたが、意外とそんな使いどきの分からない英語が頻出し、単語力もちょっと上がりました。スピーキングについては喋る力と言うよりは、英語を喋る度胸がついたと思います。もちろん文法間違いのない英語を話すことも重要だと思いますが、それを気にしては会話なんてできないと気がきました。とりあえず話してみて、間違っていたら相手に訂正して貰えばいいし、もっといい単語があれば教えて貰えばいいし、一見伝えるのが難しいことも意外と自分の知っている単語で正確に表すことができたりするから、その表現方法を教えて貰えばいいのではないかなと思うようになりました。こう思うようになったのは、きっと一緒に留学に行ったメンバーが良かったことも理由の一つにあると思います。間違った英語を話しても、発音が上手じゃなくても、馬鹿にせず、個人個人が英語をしっかりと話そうとするメンバーでした。このような振る舞いは当たり前のように当たり前ではないと思います。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと



このプログラムに参加してから、海外をとっても身近に感じることができるようになりました。就職するのも、住むのも、今までは日本か、日本でないかという視点で考えていましたが、今では地元か、地元でないかという考え方になりました。英語は意外と通じるし、意外と生活できると感じました。海外に住む人々も、遠い場所に住む誰かではなく、日本国内と同じように、息づいて感じることができるようになりました。

また、自分のしたいことをしようと強く考えるようになりました。ニュージーランドの人々は、仕事をするのも大事ですが、自分の時間を大事にして、自分のしたいことをしているように感じました。私も生涯を通して、私自身の

の気持ちと時間を大切に生活したいと思うようになりました。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

ニュージーランドのオークランドは治安もよく、様々な国籍の人々が集まる場所です。母国語が英語ではない人も多いため、英語がうまく話すことができなくても、お互いの意図が伝わるまで根気よく相手してくれる人も多く、英語を学ぶ場所としては最適な場所です。また、時期も過ごしやすい夏の季節で、様々なアクティビティに参加したり、スポーツを楽しむことができるので、スポーツが好きな人やアウトドア派の人においても素敵な経験をするすることができます。もちろん、これらの経験をするためには時には自分自身で積極的に行動することが求められますが、これらの素晴らしい経験は、日本では得ることができないであろう新しい価値観や考えをもたらしてくれると思います。

もし、2月をいつも通りの生活で過ごす予定なら、是非このプログラムに参加することを検討してみてください。英語力の向上はさることながら、今後の大学生活に大きく影響を及ぼすような経験をすることができますと思います！

プログラム名 < マッセイ大学 > ③

国・都市名： ニュージーランド（ウェリントン）
名前： 野田 佳樹
学科： 経済学科
参加時回生： 2回生
参加時期： 2018年2月17日～3月17日



1. プログラム参加を決めた動機



母と父に留学を勧められたのがきっかけでした。「外国に月単位で滞在できるのは大学生のうちだけだ。」と言われ、あまり気乗りはしていませんでしたが、覚悟を決めてこのプログラムに参加しました。このプログラムを選んだ理由は、NZはこの期間ちょうど夏で湿度も低く快適であること、小学生の時からラグビーをしていたので昔からNZという国に興味があったことです。

2. 授業・実習の内容

午前中は英会話の授業で、午後は英語で経済学についてディスカッションしました。経済学の授業は、最終週にグループごとにプレゼンテーションをしました。テーマはすべてのグループ同じで、「comvita(NZのマヌカハニーを販売している企業)の営業成績を上げるために comvita がすべきことの提案」でした。英会話についてはリラックスして受けられましたが、経済学の授業は先生の言っていることを理解していくのに精いっぱい大変でした。ただTOEIC500点程度の僕には難しかったというだけで、かなり聞き取れている人もいたのであまり身構えなくても大丈夫だと思います。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

料理の美味しさはホームステイ先によってかなりばらつきがありました。一応日本からインスタントラーメンなんかを持っていくことをお勧めします。また、飲料水は買うととても高いのですが、水道水は飲めますし、大学内にウォーターサーバーが設置されていたので、普段から水筒を持ち歩いていると便利です。



4. 現地での交流の状況



授業は同じ立命館生と一緒に受け、授業後もだいたいそのメンバーで街に繰り出したりするので、意外と現地の人と触れ合う機会は少ないです。積極的にホストファミリーに話しかけましょう。僕の場合はラグビー経験者ということでホストファミリーとラグビー談議で盛り上がりました。また、ホストブラザーのラグビーの練習についていき、そこで現地の人とラグビーをすることができました。ラグビーに限らず、サッカーなんかもやっている人がいるので、スポーツで親睦を深めるのはおすすめです。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

NZ の留学で印象に残ったのは、ウェリントン市民のモラルの高さです。バスを降りる際には運転手に感謝の言葉をかけ、横断歩道で道を渡ろうとすれば絶対に車が止まってくれます。差別を受けて不快な思いになるということはありませんでした。留学参加者の中には迷子になったところを助けてもらった人もいました。とてもいい

人が多いので NZ 留学おすすめです。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

僕がプログラムに参加してよかったと思うことは2つあります。1つ目はとにかく楽しかったことです。授業終わりに「今日はどこで何をしようか」と考えて毎日ワクワクしていました。2つ目は一か月 NZ に滞在したことで、日本の良いところ悪いところに関して今までと違った視点で気づけるようになったことです。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

事前講義で SIM カードの購入を勧められると思いますが、私のスマホは SIM ロック解除に対応していなかったので2万円も払ってグローバル WIFI をレンタルしました。しかしフリーWIFI が街中に飛んでおり、家でも WIFI が使えたため、特に必要な場面はありませんでした。渡航前にホストファミリーに WIFI が使えるかを聞いておき、使えるのならば WIFI をレンタルする必要はありません。

プログラム名 < マッセイ大学 > ④

国・都市名： ニュージーランド（ウェリントン）
名前： 岩崎 莉奈
学科： 経済学科
参加時回生： 2回生
参加時期： 2018年2月17日～3月17日



1. プログラム参加を決めた動機

私は幼い頃から英会話を習っていたため、英語に触れることが好きでした。しかし、普段の生活ではあまり英語を話すことは少なく、学校の授業だけでは物足りなく感じ、1回生の同じ時期にカナダでの1ヶ月の留学プログラムに参加しました。そこで、初めてホームステイを経験し、常に英語に囲まれているという環境がとても楽しく、また参加したいと思いました。ニュージーランドは私の中で、

平和で自然豊かでのんびりとした生活が送れるというイメージがあり、一度訪れてみたいと思っていたため参加を決めました。

2. 授業・実習の内容

普通の授業は午前の部と午後の部に分かれており、午前中は主にコミュニケーションの授業、午後は英語で経済学を学ぶというものでした。コミュニケーションの授業では、自分のことをクラスメイトに紹介したり、ペアやグループで話し合っただけで協力したりなど、毎日楽しみながら、英語を学習することができました。経済の授業では、初めは1回生の頃大学で習った経済についての基礎知識を英語で復習し、一通り学び終わった後に一つのテーマについてグループでプレゼンを作成し、最後の授業で発表しました。また、金曜日の午後には国会議事堂や、All BLACKS の会社を訪れるなど、自分たちではなかなか行けないような場所に連れて行ってもらい、貴重な経験となりました。



3. 生活（授業・実習以外の様子）

普段は学校が終わると、友達と大学の周辺を散歩してみたり、晩ご飯を食べに行ったりしました。ホストファミリーとの食事でも大切ですが、外で注文するのはけっこう大変なので、これも大切な経験だと思います。帰ってきたらホストファミリーと今日あった出来事を話したり、学校の課題のアドバイスをもらったりして交流を深めました。また、土日の休みを利用して、他の都市に行くのもおすすめです。私は首都ウェリントンに滞在していたので、ニュージーランド最大都市のオークランドへ

友達と旅行しました。同じニュージーランドでもかなり雰囲気が違い、普段できないようなアクティビティにも挑戦しました。



4. 現地での交流の状況

授業は立命生だけで行われるので、他の学生との交流はあまりなかったです。一度、それぞれのホストファミリーが集まってみんなで交流する機会がありました。そこで、普段みんながどのような生活をしているのか知ることができ、楽しかったです。また、現地の方たちは本当にフレンドリーで、親切な人が多いので、道に迷っているといつも助けられました。一度タクシーに乗ったときには、ドライバーさんととても

仲良くなり、今の目標や、将来のことを話したりするほどでした。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

一度目の留学の時は、緊張してホストファミリーともあまり話せず、部屋にこもってしまうことが多くて不完全燃焼でした。そのときの後悔を忘れられず、今回の留学ではできるだけ多くの時間をホストファミリーと過ごし、授業中も積極的に発言しました。積極的に発言するのとしないのでは留学後に大きな違いが見られます。私は、1ヶ月という短い期間でしたが、4つのスキル（聴く力、話す力、書く力、読む力）のうち、話す力が大きく伸びたと思います。



6. プログラムに参加してよかったと思うこと



積極的に英語を話していたとしても、1ヶ月だけでは英語を完全に習得することはできません。しかし、自分の中での課題は見つかります。「この単語ってこういう意味もあったのか」「この言い方はあまり日常生活では使わないんだな」などまだまだ私の知らないことがたくさん見つかり、さらに勉強しようという意欲がわいてきます。約2ヶ月という長期の休みを、ダラダラと過ごすことなく、しっかり有効に活用し、目標も見つけることができたので、参加して良かったと思います。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

このプログラムに参加するきっかけはどんな小さなことでも良いです。しかし参加するからにはせつかくこの機会を最大限に活かしてください。自分次第でこのプログラムの価値は大きく変わります。失敗はしたもん勝ちです。

プログラム名 < 東北财经大学 > ①

国・都市名： 中国（大連）
名前： 小島 和也
専攻： 国際専攻
参加時回生： 1回生
参加時期： 2019年2月24日～3月20日

1. プログラム参加を決めた動機

私は高校生の時中国に語学研修といった形で1週間滞在しました。高校では少し中国語をやっていましたが、会話をすることはできず、書くこともほとんどできませんでした。もちろん実際に中国に行ってみても会話が成立する訳がなく、英語ばかり使っていました。しかし、さすがに中国に来ているのだから中国語で会話をしたいと考え、必死に滞在中に中国語を勉強しました。1週間という短い期間ではありましたが、中国語能力を少し向上させることができました。実際に中国人に会話を持ちかけてみると、少し会話が弾みました。その時私は少しの達成感と、今後もっと中国語を学んでいきたいという向上心が沸き上がりました。大学に入り、中国への短期留学プログラムがあると聞いた時、「これは行くしかないな」と思いました。それが応募のきっかけです。

2. 授業・実習の内容

中国に着き、2日目から学校があり、実際に授業を受けてみると先生達はとても優しく親切なばかりで、中には日本語を喋ることのできる先生もいました。私達は授業を受けていくうちに、いつの間にか緊張はとれ、中国での生活を楽しんでいました。授業は8人と、少人数で行われていたので、みんな積極的に授業に参加していました。また先生以外は全員顔なじみなので、無駄に気を遣わなくて良いので、中国語を学ぶ上でとても良い環境でした。単語テストや、定期テストが何回もあり、それに向けて多くの時間を使い勉強しました。そのおかげで中国語能力は以前比べ物にならないぐらい向上しました。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

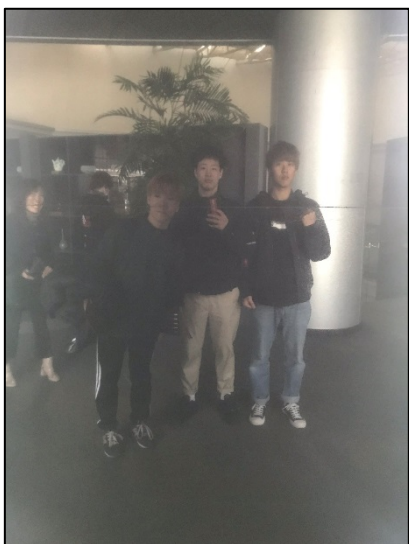
中国での食事はとても美味しかったです。中華料理を代表するものと言えば、



小籠包や中華マン、シューマイなどが挙げられますが、実際に食べてみると、日本で食べるものとは比べ物にならないほど美味しかったです。やはり本場の料理は格別だと実感しました。また大学の近くには、中華料理店だけでなく韓国料理店、イタリア料理店や日本料理店もありました。その中で最も人気があったのは日本料理店でした。実際に行ってみると、日本の料理を忠実に再現しており、中国の再現力は本当に高いなと実感しました。レストラン以外には、ショッピングモールが数多くあり、日本でも馴染みのあるブランドが数多く見られました。ショッピングモール以外には、動物園や水族館などがあり、若者達が遊ぶことのできる場所が多くありました。

4. 現地での交流の状況

私達男子4名はみんなスポーツが好きで、中国でも体を動かしたいと考えていました。東北財経大学には学内にスポーツができる場所がたくさんあり、大学生だけでなく近所の人や子供達も多く、みんなその場所を活用していました。私達はそこを利用してスポーツをすることで、体を動かすことができるだけでなく、中国人と交流することができると考え、授業が終わった後や休日など、毎日その場所に行きました。実際その場所に行くと、中国人はとてもフレンドリーで「一緒にやろう」と言ってくれました。スポーツを一緒にやるうちに、中国人ととても仲良くなり、連絡先も交換しました。もちろん会話は中国語で行うので、正直、授業以上に会話力が伸びたと思います。短期留学をここまで充実させてくれたのは彼らだと言っても過言ではありません。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

中国で最も驚愕したのは、物価が安いことです。例えば日本でパスタを食べようとしたら大体1人前が700円ほどかかります。しかし中国では1人前が15元、これは日本円に換算すると大体240円になります。中国は物価が安いということで有名ですが、実際生活をしてみて、物価の安さには何度も驚かされました。1ヶ月間生活してみて、好き勝手使った結果、5万円ほどかかりました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

良い環境で中国語を学ぶことができたことはもちろん、良い経験をする事ができましたが、それだけでなく、中国の文化や食生活を実際に体験することができたのは自分の中で本当に良い経験になったと実感しています。さらに見知らぬ外国人と積極的に会話をする事により、コミュニケーション能力も向上しました。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

参加がまだ決まっていない学生の皆さんは是非参加してほしいです。理由は説明した通り、語学力の向上やコミュニケーション能力が身につくからです。さらに留学資金も12万円とかなり安いです。まだどうしようか悩んでいる皆さんは是非行くことをお勧めします。

参加が決まっている皆さんには、自分からアドバイスできることは1つしかありません。それはしっかりと積極的に中国人と会話をする事です。それがスポーツであったり、道端で会った人であったり、きっかけはなんでも良いです。とりあえず会話をする事によって、中国語能力はかなり向上します。1か月間という短い期間ですが、中国で生活してみると結構耳が慣れてきます。だから安心してください。無事に帰って来られることを祈っています。

プログラム名 < 東北財経大学 > ②

国・都市名： 中国（大連）
名前： 川合 統子
専攻： 国際専攻
参加時回生： 1 回生
参加時期： 2018 年 2 月 20 日～3 月 17 日

1. プログラム参加を決めた動機

私は元々国際専攻の中国語インテンシブコースに所属していたので、週 4 日学んでいました。はじめは「新しい言語を学んでみたい」という軽い動機でこのコースを選択しましたが、1 年中国語を学んでいくうえで中国という国に興味を持ち、新しい単語や文法を身に付けることで得られる喜びを感じられるようになりました。今回のプログラムでは、4 週間現地の大学に通いながら、休日を自分たちで過ごせるという点が魅力的だと思いました。そのうえ、中国語を活用しながら楽しんで学習できると考え、応募しました。



2. 授業・実習の内容

週末の土日以外は毎朝 8 時 10 分から 11 時 50 分まで中国語の授業を受けていました。2 週目までの 13 時半から 15 時までは経済学の授業、3 週目からは中国文化を学ぶ授業がありました。

中国語の授業は口語と文法などを学ぶ総合の 2 つで、先生もそれぞれ分かれていました。口語の先生は女性で、歌が好きな楽しい方でした。クラスみんなで毎時間歌を歌っていたので、中国から帰った今でも口ずさんでしまう程です。総合の先生は男性で、日本が好きなフレンドリーな方でした。留学されていたので、日本語がお上手で面白かったです。中国文化の授業では中国ならではのお茶や太極拳を教わりました。

4 週目の最後の 2 日は HSK とテストでした。出題される問題は授業で身につける単語や文法だけでないので、授業を真面目に受けて毎時間スキルアップしていくことは勿論、自分で勉強しようとする努力が必要だと強く感じました。単語力はその場面においても必ず大切です。

3. 生活（授業・実習以外の様子）



4 週間大学の寮でクラスメイトと二人一部屋で生活していました。一見部屋は清潔ですが、洗面台が少し黄色く汚れていたり、排水溝から変な匂いが上がってきていたりしていました。対処法は消臭剤を置いたり、こまめに掃除をしたり部屋ごとに決めるのがいいと思いました。トイレとシャワーが超至近距離に設置されていて、シャワーを浴びると必ずトイレが濡れるようになっていました。最初は床が扉の近くまで濡れていましたが、慣れると床をあまり濡らさずにシャワーを浴びることが出来るようになりました。ベッドは少し固いので、敷くためのタオルなどがあると良いと思います。この時期の大連は寒か

ったですが、ヌアンチー(暖房)が設置されているので寒い事が無くてすごく快適でした。

休日は旧正月の時期だったので元宵節を楽しんだり、クラスメイトとショッピングモールに行ったりしました。店員さんに質問をしたり注文したりする中で、必ず中国語を話さなければならないし、周りのお客さんも中国人の方ばかりなので自然に中国語を聞くことが出来ます。楽しい休日でも中国語を活用する機会は自分で増やすことが出来ました。交通機関は基

本的に地下鉄を利用していました。韓国の地下鉄のような雰囲気、すごく清潔な印象を受けました。乗り換えも比較的簡単でしたし、大学から駅が近かったので利用しやすかったです。番号がややこしいですが、安いので慣れるとバスが良いと思いました。

4. 現地での交流の状況

授業終わりに東北財経大学の日本語学科で学ぶ中国人の学生さんと旅順、博物館に行ったり、ご飯を食べに行ったりしました。皆さん日本語を学んでいる方なので、私たち日本人に興味を持ってくれて、フレンドリーに日本語で話しかけてくれました。交流が終わっても大学の食堂などで会うと挨拶するようになり、嬉しかったです。同世代の方なので、言語の壁を感じる事があまりなく色々なお話ができて楽しくかったです。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

私が寮の部屋鍵をなくした時に、その前に行ったお店の店員さんに聞いてみると、全ての机の下を覗き込みながら探してくださいました。結局その落し物は私の勘違いでカバンに入っていたのですが、店員さんの優しさに暖かい気持ちになりました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

中国という国の印象が 180 度変わったことです。このプログラムに参加する前から中国語を学習することは好きでしたが、中国のことが特別好きということはありませんでした。中国に対して勝手にあまり良くない印象を持っていましたし、進んで中国に行きたいと思いませんでした。しかし、一見冷たいようにも見える中国の方は、凄く親切で優しい方が多いと感じました。そして、日本と全く違う面もあり奥深い中国の文化に肌で触れることができたことが今回のプログラムの収穫だと思っています。中国語インテンシブコースに所属して授業を受けることで、参加しようと心変わりして良かったと思っています。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

単語力が必要だと感じました。現地で生活していく上では授業で扱わないような単語が必ず出てきます。自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物の単語は覚えておくべきだと思いました。自分の話した中国語が相手に通じなくて厳しく聞き返されてしまったとしても、もう一度チャレンジしてみることが大切です。自信がなくてもハッキリと物を言うことが大切だと感じまし



た。大抵の相手は熱心に聞いてくれると思います。

本場の中国で中華料理を食べに行くと、日本にないようなものが沢山あります。言葉に関してだけでなく、食べ物の面でもチャレンジが大切だと思いました。4 週間もいると「失敗したな」と思うものも口にするとありますが、その数以上に美味しいものが多いです。漢字を見て内容が大体分かるようになったのは、勿論毎回調べるようにしたということと沢山試してみたからだと思っています。

日本と中国の溝を感じることもあるかもしれませんが、心折れずに積極的に中国語を話すことをお勧めします。

プログラム名 < 大連外国語大学（長期） > ①

国・都市名： 中国・大連
名前： 藤島 妃奈乃
学科： 国際経済学科
参加時回生： 3回生
参加時期： 2018年9月5日～2019年1月12日

1. プログラム参加を決めた動機

私が今回の留学への参加を決めたきっかけは、1回生の時に行った短期の中国留学でした。それまでは長期の留学に行くつもりはなく、中国語の勉強はなんとなく大学の講義を受けているだけでしたが、1か月間の短期留学が終わった時、中国語はもちろん、生活、人とのコミュニケーションなど様々な面で成長を感じることができたので、長期も行きたいと考えようになりました。中国語に自信があったわけでもなかったし、3回生ということで就職活動との関係もあり悩みましたが、今しか経験できないことだと思い参加を決めました。

2. 授業・実習の内容

中国語の授業は月～金曜日の午前中にあります。学校が始まる前にクラス分けテストを行います。テストで振り分けられ



たクラスが難しい、または簡単すぎるなどで合わないと感じたら、他のクラスの授業を体験しながらクラスを変更できる期間が1週間ほど設けられているので、自分のレベルに合ったクラスを選んで勉強できます。私のクラスは総合的に中国語を学ぶ授業、リスニング、リーディングと3つの授業がありました。各クラスで少しずつ授業の進め方などにも違いがありますが、どの先生も丁寧に質問などにも答えてくれるのでとても学びやすい環境だったと思います。

月～金曜日の午後には専門授業があります。HSK対策や発音の授業のような座学もあれば、中国結びや切り絵など、中国の伝統を体験できるような形の授業も用意されています。これは、気になる授業を自由に選択するという形なので、自分の興味があるものを選択すると良いと思います。友達の輪を広げるいい機会にもなります。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

私たち留学生は、留学生用の寮で生活します。寮は6人部屋、2人部屋、1人部屋が選べますが、私は6人部屋か2人部屋がお勧めです。やはり最初は同じ部屋の人との交流が一番多くなるので、中国語を使う練習にもなるし、他の国の文化や生活を感じられて楽しいです。寮の地下には共用の洗濯機、共用キッチンが置かれています。2人部屋にはキッチンがありませんが、この共用キッチンで調理ができます。

学校の敷地の中には日用品などの買い物が出来る建物、食堂、図書館、カフェ、体育館など、生活に必要な設備はある程度整っています。カフェや体育館は交流の場にもなるので、積極的に行くと良いと思います。また、学校から少し外に出ると、カフェが並んでいたり、スポーツジムがあったり、ご飯屋さんがたくさん並んでいる「海鮮街」というところもあるので、とても生活しやすい環境だと思います。学校から市内に行けるシャトルバスも毎日運行しているので、休日は市内に遊びに行く人もとても多いです。



4. 現地での交流の状況

現地での交流は、やはりクラスメイトやルームメイトなどの留学生同士の交流が多くなると思います。お互い中国語を勉強している同士なので伝わらないことも多いですが、会話1つ1つがお互いの勉強になるので私は積極的に交流していました。お互いの国の食事、文化、流行などの話をするのはとても楽しかったです。日本のことに興味がある、日本のことが好きという外国人の方はたくさんいるので、ぜひたくさん交流してほしいです。

もちろん、現地の中国人の方たちと交流する機会もたくさんあります。学校の日本語学科の生徒の方たちをはじめ、日本語コーナーという交流会に参加している学生の方たち、買い物に行った時に会った店員さん、街中で話しかけてくれる人など、交流のチャンスはどこにでもたくさんあるので、私はなるべくたくさんの方と気軽に話すように心がけていました。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

私が留学を通して身についたと思うことは、やはり第一に語学力です。留学前、私は決して自分の中国語に自信があったわけではなく、むしろほとんどコミュニケーションが取れない状態で留学に行きました。それが、留学が終わって帰国する時には、中国語を使ってたわいのない会話を笑顔で楽しめるほどになっていました。半年でここまで身につくと思っていなかったもので、とても嬉しかったです。

もう一つ、私は日本では実家暮らしなので、家事を全て自分でしなければならない状況で半年間生活したのはこの留学が初めてでした。しかも、外国の慣れない生活ではたくさんの困難に遭遇しました。それを1つずつ乗り越えていくことで、



生活能力や問題を自分の力で解決する力が身についたと思います。同時に、私のことを支えてくれている家族や友達の大切さにも気づけたと思います。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

今回この留学プログラムに参加してよかったと思うことは、語学力、生活、人との関わり方など様々な面で自分に自信を持つことができるようになったことだと思います。留学中には、日本では経験できないような

貴重な体験もあれば、日本ではありえないようなトラブルに遭遇することもあります。そのような経験を経て、精神的にとっても成長できたと感じました。

また、この留学を通じて世界各国の友達ができただけでなく、大きな財産だと思います。私は実際、中国人をはじめ韓国人、ロシア人、イタリア人、タジキスタン人、キルギスタン人など、中には名前すら初めて聞いたような国の人とも友達になりました。日本で生活していたら絶対に知り合えないような人たちと生活を共にし、友達になれたことは本当に貴重だと思います。彼らの文化、宗教、考え方や習慣などを知り、実際に生活を共にすることで、自分の世界が広がりました。留学で出会った友達とは、帰国した今でも連絡を取り合っています。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

留学は楽しい事ももちろんたくさんありますが、やはりそれだけではなく大変なことや辛いこともあります。実際私も言語や文化の壁で落ち込み、日本が恋しくなることもありました。しかし、自分からいろんなところに出かけて、いろんな人と話をして、行動すれば必ず結果は返ってきます。必ず、素敵な友達と一緒に有意義な留学生活を過ごせると思います。

今、留学に行くか迷っている人にはぜひ勇気を出して行ってほしいです。最初は不安なことだらけだと思いますが、絶対に今しかできない貴重な経験になると思います。頑張ってください。

プログラム名 < 大連外国語大学（長期） > ②

国・都市名： 中国（大連）
名 前： 三宅 浩太
学 科： 国際経済学科
参加時回生： 3回生
参加時期： 2018年3月4日～7月15日

1. プログラム参加を決めた動機

私は大学入学前に何度か中国へ旅行として行ったことがありました。なので、中国の文化などに対しては一定の理解をしていると考えていたのですが、1回生の春休みに今回の派遣先と同じ大連外国語大学に短期留学した際、旅行だけでは味わえない様々な経験をすることができ、その認識は甘かったと反省させられました。文化や価値観の違い、例えば人の間違いはその場ですぐに指摘する、負の感情を隠さないなどは、現地で体験することで実感をもつことができるようになります。しかし短期留学は1ヶ月と期間が短く、ようやく中国が分かりだしたところでの帰国となってしまいました。そこで、長期留学を通してより深く中国文化を理解すると同時に、自身の語学力とコミュニケーション能力の向上を目的に、プログラム参加を決定しました。

2. 授業・実習の内容

授業は15～30人ほどの少人数クラスによって行われます。入学時にまずクラス分けテストが行われ、その結果をもとにクラスが割り当てられます。レベルは大きく分けると、入門・初級・中級・高級の4段階があり、そこからさらにそれぞれの中で3段階ほどのレベルによって分けられます。私の場合は留学前にHSK5級と中国語検定3級を取得していたのですが、割り当てられたのは中級の中で上の方に位置するレベルのクラスでした。目安としては、だいたい高級からHSK6級及びネイティブを対象としたレベルの授業になるようです。また、このクラスは先生に相談すれば変更することが可能なので、自身のレベルに適したクラスを見つけることは難しく無いと思います。

基本的に授業は8時30分から90分×2コマ行われ、午後は選択授業をとっていないかぎり自由時間となります。選択授業は留学生の場合2つまで選択できるようで、私は日中翻訳と発音の授業をとりました。授業内容はクラスによって先生や教科書などが違うのですが、私のクラスでは、精読（長文読解）、口語（スピーキング）、阅读（HSK5級で出題されるような短文読解）、听力（リスニング）の授業が行われました。また、授業はすべて中国語で行われました。テストは中間と期末の二回あり、授業によっては小テストや宿題、発表などがあります。最初は先生の早口の中国語に戸惑いましたが、先生は優しく、質問すれば分かりやすく教えてくれるので、学習面の不安はあまりなかったです。

3. 生活（授業・実習以外の様子）



私は大学内の留学生宿舎の6人部屋で1学期間を過ごしました。6人部屋といっても、2人部屋が3部屋あって共用スペースがそこに併設されているというスタイルで、共用スペースにはテレビやキッチン、ソファやテーブルなどがあり、シャワートイレは2箇所ありました。この他に2人部屋という選択肢もあったのですが、そちらと比べて共用スペースがある分広く部屋を使えキッチンもあるので、ルームメイトとの相性の問題はありますが、私としては6人部屋をオススメします。また、生活に必要なものは大学内のスーパーや外に出てすぐのコンビニでほとんど揃うかと思いま

す。他にも、タクシーに乗って10分ほど行けばウォルマートがあるのでよく活用していました。

ネット環境については、大学内には有料の Wi-Fi があるのでそれを利用するか、もしくは中国で SIM カードを購入しスマホに挿入して利用するかを選択になると思います。私の場合は現地で中古の iPhone を購入し、SIM カードを挿して使っていました。携帯電話の番号がなければ中国での口座開設や列車やホテルなどのチケット取得に支障があるので私としては SIM カードの購入をオススメします。会社にもよりますが、だいたい月 50 元(当時 1 元=約 17 円)で利用することができました。あと、中国国内ではツイッターやフェイスブックなどの一部 SNS や Google、LINE などの利用が制限されています。利用の際には各種 vpn サービスを使うようにしましょう。無料、有料様々な種類があるので調べてみてください。

食事の選択肢としては、学食・大学外のレストラン・出前が主になります。出前は色々あるアプリを適当に選んでダウンロードし、WeChatPay を使って支払いすることで宿舍まで届けてくれるのでとても便利です。また、ここに出てきた WeChatPay(もしくは Alipay)は生活の必需品ですので、必ずダウンロードして入金するようにしましょう。先ほど述べた SIM カードの利用にも、料金支払いにはこうしたアプリが必要となります。大学から大連市内までのシャトルバスもこのアプリがなければ支払いができません。銀行で口座を開設し、その口座と紐付けることをオススメします。



休日や午後の自由時間には、大学の周りがあるカフェで勉強をしたり、ビリヤードができる施設があるのでそこで友人とビリヤードをしたりしていました。他にも大連市内まで行けばショッピングなどを楽しめます。遊園地や水族館、動物園なども有名です。また連休も何度かあるので、その期間を利用して中国国内を旅行することもできます。私は上海とタンドン、北京に行きました。ホテルの確保や航空券、列車のチケットの確保には色々あるスマホアプリを使えば簡単にできるので試してみてください。

4. 現地での交流の状況

現地での交流には色々な手段があります。クラスには世界各国から中国語を学びに来ている人が居ますし、バスケットボールがうまい人なら現地の部活に参加することもできます。学生が独自で活動している勉強会や、日本語を勉強している中国人学生との交流会、学期ごとに行われる運動会や国際文化祭に代表されるイベントなど、その手段には事欠かないでしょう。また、そうした情報はすでに何年か滞在している日本人留学生が詳しいので、クラス内などで先輩留学生を探して交流を持つようにすればいいかと思います。私の場合は 6 人部屋のルームメイトに会いに来た先輩留学生と仲良くなり、そこから国際文化祭のグループに参加して交流を広げていきました。

留学先では日本人とは交流をしない、という選択肢ももちろん語学力向上にはいいかもしれませんが、それではなかなかイベントの情報が集まりにくいので、いいバランスを保ちながら日本人留学生とも交流することをオススメします。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

この留学で語学力、特にリスニング能力はかなり向上しました。先ほど述べたように授業はすべて中国語で行われます。1 ヶ月もしたら中国語に耳が慣れてきて、留学が終わる頃には各種試験のリスニングテストは楽に突破できるようになるでしょう。また、現地中国人や、大学に中国語を学びに来ている外国人との交流を通して、文化の違いやそれを踏まえた上での交流関係の築き上げ方などを学ぶことができました。大学に通う外国人はロシア、韓国からの人が多いのですが、ウズベキスタンやタジキスタン、フランスやアルバニアなど様々です。特に日本人にとってはあまり考えることの少ない、宗教に関する色々な考え方に触れることができます。ルームメイトがウズベキスタンからの留学生だったのですが、イスラム教のラマダンについて実際に祈祷の仕方なども見ることができましたし、彼らの考え方を聞くこともでき良い経験になりました。また、この交流を通してスピーキング能力も向上させることができました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

やはり一番は様々な国の様々な価値観に触れ合うことができたことが良かったと思う点です。現代はネットを通して海外の情報を苦勞せずして入手することができる、とても便利な世の中になっています。ですが、その情報を批判的に見るための経験や知識が追いついていないと感じることが多々ありました。今回の留学を通して異なる文化圏で過ごしてきた人との考え方の違いを気付くことができたので、今後は以前よりも少しは正確に情報を読み取ることができると思います。こうした



能力を身につけられたのはとても良かったです。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

長期間の留学ともなると、色々と不安になるかもしれませんが、先生や学部事務室の方々、現地の先生や友人など、いろいろな人があなたをサポートしてくれるかと思えます。実際に私も困ったことがあればそうしたサポートを受けることで解決できました。ですので、必要以上に怖がることはありません。もし、現地の生活に慣れ少し気が抜けてきたら、留学前に実施された危機回避ガイダンスで学んだことを思い出すようにしてください。それができれば語学力の向上や自身の視野を広げる良い留学になることでしょう。この経験談が皆さんの留学をより良いものにする一助となれば幸いです。

プログラム名 < 大連外国語大学（長期） > ③

国・都市名： 中国（大連）

名前： 大田 凌平

学科： 国際経済学科

参加時回生： 3回生

参加時期： 2018年3月1日～7月13日

1. プログラム参加を決めた動機

プログラムの参加を決めた理由は二つありました。一つ目は、入学してから二年間中国語を勉強してきたにも関わらず、全くレベルが上がっていなかったことです。まじめに勉強していなかったため、当然のことではありましたが、一度サークル、アルバイト、そして大学の授業から離れて、中国語だけに集中できる環境にしようと思い留学することを決めました。二つ目の理由は、忍耐力を鍛えるためです。私がこれまで訪れた国はすべて英語圏の先進国でした。中国は経済的にとても発展している一方で、生活水準は日本ほど高くないという印象でした。また、英語圏ではないため、英語が話せても役に立ちません。そのため、中国で生きていけたら、将来どんなに過酷な地域に行くことになっても耐えられる自信がつくと思い、留学することにしました。

2. 授業・実習の内容

私の場合、精読、听和说、阅读、発音、そして英語の授業がありました。精読の授業では、主に単語や文法など基礎的なことを勉強していました。また、課題で作文の提出を求められることが多かったため、学んだ単語や文法をアウトプットすることができ、総合的に力がつきました。听和说ではリスニングがメインの授業でした。リスニングが苦手だった私にとって一番難しいと感じた授業です。授業の内容は、ある長文の音声を聞いて、聞き取った内容を先生に発表する形式です。また、リスニングの後には、5人ほどの班に分かれて、音声の内容を寸劇してみんなの前で発表することもありました。阅读の授業では、ひたすら長文を読んで問題を解いていく形式でした。資格の勉強に役立つ授業でした。発音と英語の授業

は選択授業で、ほかにもたくさんの授業がありました。一人二つまでしか選べなかったため、私は中国語の発音を鍛える授業と英語の授業を選択しました。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

授業は基本的に午前中しかないので、午後からは自由な時間になります。私の場合は、大学の近くにあるカフェや図書館にこもって授業の予習・復習や資格の勉強をしていました。また、大学の周りにはカラオケやビリヤードで遊べる場所があり、友人と遊ぶ際はよく利用していました。休日は、市内で買い物をしたり、三連休があれば観光に行ったりしました。私は上海、北京、丹東に行きましたがそれぞれの地域で特徴があるため、もし中国に留学するのであればたくさんの地域に訪れてもらいたいと思います。食事に関しては、大学の食堂や大学の周辺にあるレストランを利用しました。日本と比べてかなり安く、量も多いので、満足できます。また、六人部屋の寮の場合、部屋にキッチンがあるため、大学の近くにある八百屋で買い物をして自炊することもありました。ほかにも中国では外卖という出前のサービスを提供しているアプリがあり、とても便利なのでよく利用しました。

4. 現地での交流の状況

現地では、主にルームメイト、クラスメイト、そして日本人と交流することが多かった。ルームメイトとは、部屋に大きなキッチンとリビングがあり、一緒にテレビを見たり、ご飯を食べたりしました。クラスメイトとは、中国語のレベルが基本的に同じであるため、接しやすかったです。また、大連外国語大学では様々な行事があり、体育祭の場合、クラスごとで参加するため、自然と仲良くなりました。時にはクラスで飲み会があり、クラスメイトと関わることはとても多かった。次に、留学している日本人と関わることもかなり多かった。前期には文化祭があり、ここでは各国の学生が母国の料理や飲み物を提供したりします。このような行事を通して、多くの日本人と関わるができます。日本人の中には本科生もいますので、授業のことなど何か悩みがあればすぐに相談できるとても心強い存在でした。大連外国語大学には、日本語を勉強している中国人がたくさんいますので、彼らと仲良くなると中国語の成長も早くなると思います。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

留学を通して、忍耐力とコミュニケーション能力が大きく成長しました。まず忍耐力については、留学期間はずっと六人部屋の寮で暮らしていて、最初は優しいルームメイトに恵まれながらも、常に人に気を使ったり、あまりきれいではない環境で生活したりすることにストレスを感じていました。しかし、次第に慣れてきて、忍耐力もついてきたと感ずきます。また、ほとんど中国語が話せなかった私は、ルームメイトやクラスメイトと話したくても怖気づいていたことがありました。しかし、クラスの中には中国語があまり上手ではない人でも積極的に人と話そうとしている学生がおり、自分の甘えに気づき、それからはたとえ上手に話せなくても、人と話す努力をしました。はじめは、クラスメイトやルームメイトにしか話しかけていませんでしたが、次第にタクシーの運転手や店員さんに話しかけられるようになり、笑われたり、相手にされなかったりしたこともありましたが、以前と比べて確実にコミュニケーション能力がついたと実感しています。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

プログラムに参加してよかったと思うことは、かけがえのない経験と友人ができたことです。その友人というのは、私のルームメイトの中国人でした。彼は、日本語を勉強していたため、日本にとっても興味を持ってすぐに仲良くなりました。よく一緒にご飯を食べに行ったり、買い物に行ったりしました。その中でも特に印象に残っていることは、彼の故郷である丹東に行ったことです。そこでは、様々な観光地に案内してもらい、美味しい食事までごちそうになりました。また、彼の家族にもお世話になりました。このような経験ができただけでも、私はプログラムに参加してよかったと思いますが、彼以外にも多くの友人ができ、貴重な思い出を作ることができました。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

私は中国に留学したことをとてもいい選択をしたと思っています。そして皆さんにも留学することはお勧めしたいです。しかし、留学するうえで気を付けていただきたい点が二点あります。一つ目は、留学する目的を明確にして、その目的を達成するためにどのようなことすればいいか事前に準備しておくことです。私の場合、語学力の向上を目的にしていたのですが、具体的な目標は持っていませんでした。しかし、留学すれば勝手に成長するわけではなく、授業も無難にこなすことも可能で、何も成長せずに留学を終える可能性もあります。そのため、毎日現地の人と話す、授業で必ず質問するといった具体的な目標を立てていたほうがより成長できていたと感じます。二点目も準備に関することになりますが、留学するうえでその国独自の文化や習慣などを勉強しておいたほうがよかったです。例えば、中国では支払いには電子マネーを利用することが多く、現金が使えない場合もあります。そのことを知っていれば、電子マネーを使えるように準備しておくこともできましたし、いざそのような場面に直面した時に戸惑うことはなかったと思います。そのため、ネットで調べたり、留学経験者に話を聞いたりして予習しておいた方がいいと思います。



プログラム名 <タイで学ぶ地域開発とツーリズム> ①

国・都市名： タイ（バンコク、コンケン）
名前： 小西 祐香
専攻： 国際専攻
参加時回生： 1回生
参加時期： 2019年8月19日～8月31日

1. プログラム参加を決めた動機

私がこのプログラムに参加しようと思った動機は二つあります。一つ目は、発展途上国であるタイを自分の目で見てみたいと思ったからです。私は、地域開発や観光業に興味があり、タイの様々な地域を訪れ、どのような取り組みを行っているのか学びたいと考えたからです。そこで経験したことは、日本の地域開発などに役立つのではないかと考えています。また、学んだ事を将来に繋げられるのではないかと考えています。二つ目は、このプログラムは旅行などでは行けない田舎の地域で実施され、とても貴重な体験になると考えたからです。普段体験出来ないことを行うことができます。これら二つの理由から、参加を決めました。

2. 授業・実習の内容



このプログラムはフィールドワークが中心となっていて、2週間、村や施設を訪ねます。他に大学等でタイに関する講義もありました。全て英語で学習しました。

タイに着いてまず、NIDA で講義を受けたり、敷地内を見学しました。NIDA の教授がタイの現状や地域開発など様々なことを教えてくれました。その後、コンケンに移動して NIDA に加えてコンケンの教授や学生と共に実習を行いました。実習では、基本的には二つのチームに分かれて、八つの村や施設を訪れました。施設などについて

の説明は、そのコミュニティの代表の方がタイ語で説明をされ、NIDA の先生が英語に翻訳されるという形で

した。やはり、すべて言っていることは理解できないので、分からなかったことはコンケン大学の学生が丁寧に分かりやすく説明してくれたので理解を深めることができました。説明が終わると、質疑応答の時間が設けられ、気になった所、疑問などを学生が質問しました。それが終わると、施設の見学や体験をしました。普段できないことを体験でき、とても良い経験になりました。また、フィールドワークの初日には、ホームステイがありました。英語が全く伝わらず、コミュニケーションが取れず大変な思いをしましたが、日本とは違う生活を味わうことができました。最後には、訪れた村や施設についてのプレゼンテーションを二人一組で行います。そこには、コンケンの学生も聴きにきていて、多くの人の前で発表しました。とても充実した日々を過ごせて、貴重な体験ができ良かったです。

3. 生活（授業・実習以外の様子）



まずは食事についてですが、タイ料理はとても辛いというイメージがあると思います。確かに、訪れた村のご飯には、辛いものもありました。ですが、現地の人も分かっているので、辛さは日本人向けに控えめに作ってくれます。また、辛さは毎日食べていると慣れてきます。ソムタムやパッタイなどタイの郷土料理を食べることができます。夕食はタイの学生とタイスキや焼肉などを食べに行ったり、ナイトマーケットで食べました。ナイトマーケットでは、虫も売られています。滅多に食べる事が出来ないの、発見したらぜひ食べてみて下さい。

次に買い物についてですが、タイはとても物価が安いです。特にナイトマーケットで売られているものは、日本と比べ物にはなりません。服やコスメ、財布など様々なものが売られています。確かにコピー商品も多いですが、お土産などにはとても手頃な値段で、お土産にはちょうどいいと思います。また、コンビニも多くあり、日本のお菓子もありました。日本の味が恋しくなっても大丈夫です。

また、ホテルについてですが、Wi-Fi も完備されていてあまり不便なことはなかったですが、シャワーは時間によってお湯が出ない事があります。シャワーは少し我慢しないといけません。また、ホームステイ先や施設のトイレはバケツから水をすくって流す必要があります。初めはびっくりする事もあると思いますが、慣れてしまえば問題ありません。

4. 現地での交流の状況

現地でのコミュニケーションは英語だけです。タイの人は、とても親切で、理解できない時は、ゆっくり話してくれたり、言い換えて分かりやすく伝えてくれました。確かに、会話のツールとして全て英語のため、学生との会話では、初めはお互い伝わらない時もあり大変な事もありました。しかし、NIDA の学生も第一言語が英語ではないため、難しい単語や文法を使う事が少なく、意外と多く通じることもありました。なので、私自身も伝わらなかったらどうしよう、など考える事なく挑戦する事が出来ました。このような事に気づけたことは、留学中に沢山英語を会話したからだと思います。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

このプログラムに参加して身に付いたことは、行動記録を取る事です。フィールドワークでは、ただ話を聞くだけではなく、メモを取り、分からない事、気になる事があると質問をしました。また、行動記録だけでなくSWOT 分析も行いました。この二つをすることで、理解を深める事が出来ました。タイは、日本と同じで少子高

齢化社会です。そのため、SWOT 分析で学んだことは日本の地域開発にも繋がるのではないかと思います。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

このプログラムに参加して良かったことは、日本では経験出来ないものを沢山経験する事が出来たという事です。生活スタイル、食事など日本とは違うことも多くあります。そのようなことを知れて本当に良かったと思います。また、2週間英語で会話をします。改めて、自分自身の英語力が分かり、これからの学習のモチベーションにもつながりました。この2週間は、とても濃い忘れられない思い出になりました。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

このプログラムに、少しでも興味を持っているのであれば、是非参加するべきだと思います。今までに体験しなかったことが出来、本当に充実した2週間になるとと思います。沢山のことを得られると思います。また、このプログラムは、他のものに比べると金銭的にも安い事も魅力の一つだと思います。是非、挑戦して下さい。

プログラム名 < タイで学ぶ地域開発とツーリズム > ②

国・都市名： タイ(バンコク、コンケン)

名前： 尾上 みか

専攻： 国際専攻

参加時回生： 2 回生

参加時期： 2018 年 8 月 19 日～8 月 31 日

1. プログラム参加を決めた動機

私がこのプログラムに参加した理由はタイの観光振興や地域開発について学べると思ったからです。私は地域開発や観光業に興味があり、このプログラムではタイの様々な村に訪問しその村が如何にして地域発展に取り組んでいるかを学ぶことが出来ると思ったからです。このプログラムでタイと日本の地域開発を比べることでタイの地域発展から学べることがあると思い魅力を感じたからです。また私は海外に行ったことがなく実際にタイに行き二週間、NIDA やコンケン大学の学生と共に活動し英語でのコミュニケーションが出来ることに魅力を感じたからです。



2. 授業・実習の内容

現地でのプログラム内容は、タイに着いてまず NIDA で講義を受けたり NIDA の敷地内を見学したりしました。NIDA で私たちは日本の地域発展の事例を NIDA の教授と学生の前で発表し質問や意見を貰いました。その後、コンケンに移動し NIDA に加えてコンケン大学の教授と学生と共に実習を行いました。そこではまず、2 つのチームに分かれそれぞれ訪問する村や施設での質問事項を出し合いまとめました。フィールドワークは 8 つの村や施設を訪問しました。このうち訪問 1 日目はホームステイをして実際に村での生活を体験しました。日本

とは全く異なる生活を味わうことができ、シャワーが水しか出ないという貴重な体験もできました。フィールドワークでは質疑応答や実際に作業を体験することができ、タイ語での説明を NIDA やコンケン大学の学生が英語で通訳してくれる形で行われました。英語での説明で分からなかった部分はタイの学生が何度も説明してくれてしっかりと理解を深めることが出来ました。フィールドワークが終わるとコンケン大学のプロジェクトを見学したりコンケン大学内をサイクリングしたりしました。

そして最後に行われるプレゼンテーションに向けて訪問先で学んだことをまとめ発表するためのパワーポイントを作成しました。このプログラムでは座学だけではなく現地を訪問し話を聞き自ら体験することが出来るため、座学だけでは発見できないことを身をもって感じる事が出来たと思います。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

まず食事についてです。コンケンではホームステイ以外はホテルに滞在するため朝食はホテルでビュッフェを食べることが出来ます。ビュッフェでは目玉焼きやソーセージといった洋食も置いてあり安心でした。昼食は訪問先の村や施設で提供していただいたものを食べました。昼食はタイ料理で辛いものもありましたが辛いものもあつたので困ることはありませんでした。夕食はホテルの近くのローカルなお店に行ったりナイトマーケットの露店で食事をしたりしました。日本食が恋しくなった時がありましたがナイトマーケットではタイ料理だけではなくラザニアなども売っていたので乗り切れました。またナイトマーケットでは虫も売っていて日本では滅多に体験できないことが出来ました。

次に買い物についてです。やはり物価が安く日本に帰国した後ももう少し買っても良かったなと思いました。コンケンにあるショッピングモールではユニクロなど日本のショッピングモールと似ているなと感じました。しかし安い値段で買うならやはりナイトマーケットだなと思いました。ナイトマーケットには3回行くことが出来ました。コピー商品も多かったですがお土産を買うにはちょうど良い価格で販売していて、お土産のほとんどはナイトマーケットで買いました。タイパンツはタイパンツと言っても伝わらず画像を見せるとスムーズに買うことが出来るかなと感じました。またホテルの近くにコンビニがあり日本語表記のパンやお茶がありましたが、お茶はすごく甘くてびっくりしました。

そして衛生面についてです。ホームステイでのシャワーが水しか出なかったこと以外にシャワーに関しては心配することではなくホテルでは温かいお湯が出ました。トイレはホテルのものは洋式でしたが、訪問先のトイレや立ち寄ったトイレはバケツに水を汲んで流すという形で慣れないものでした。トイレトペーパーが無い場所もありトイレトペーパーは必需品だと感じたのですが、タイのコンビニでも売っているのでもわざわざ日本から持っていく必要はないと思いました。

最後に通信環境です。ホテルには Wi-Fi がありましたが部屋によっては繋がりにくい場合もありました。ポケット Wi-Fi が1つありましたが全員が繋がることが出来なかったため個人でポケット Wi-Fi を借りていくべきだったと思いました。

4. 現地での交流の状況

現地での交流は全て英語で行われました。コンケンでのフィールドワークは現地の人々がタイ語だったのでタイの学生が英語で通訳をしてくれました。フィールドワークの中で受けた説明が分からなかったときはタイの学生が図を描いたり違う例を出したりして理解することが出来るまで説明をしてくれました。このプログラムに参加する上で英語でのコミュニケーションは必須だったので徐々に英語を話すことに慣れていきました。またナイトマーケットなどで買い物をする際はタイ語でのコミュニケーションが必要な場合があり、タイの学生が周りにいないときは少し困りました。しかし身振り手振りでコミュニケーションをとり何とか買い物をすることが出来ました。タイ語で数字をどのように言うかぐらいは覚えておくべきだと感じました。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

このプログラムを通して身についたことは、考え分析するという姿勢です。フィールドワークを通して訪問先でただ説明を聞くだけではなく、そこから気になったことを質問し理解を深めることが大切だと感じました。さらに最後のプレゼンテーションでは訪問先の現状について分析をして、見つけた課題に対する提案を考え発表する必要がありました。様々な点に疑問

を持ち知識を深めていくという姿勢を学ぶことが出来ました。また英語を使って会話することに抵抗を感じなくなったと思います。このプログラムに参加するまでは外国人と会話する機会があっても少し恥ずかしく躊躇してしまうことがありました。しかし二週間タイの学生と英語でコミュニケーションをとらなければならず、会話をしているうちに積極的に話すことが出来るようになったと思います。印象に残ったことはタイ人の優しさです。私はフィールドワーク中に少し火傷をしてしまいました。その時に訪問先の方だけでなくタイの教授や学生がとても心配してくださり、伝統的なおまじないで治療をしてくれたり、アロエや火傷に効く塗り薬をくれたりしました。その他にもフィールドワーク中にタイ人の温かさを感じる事が出来ました。また虫を食べることが出来たのはとても印象に残っています。虫の種類には驚きましたが、いつか食べてみたいと思っていたので経験することが出来て良かったです。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

このプログラムに参加してよかったと思うことは日本にいただけでは経験できないものを沢山経験することが出来たということです。私にとってこれが初めての海外でした。二週間、英語でコミュニケーションをとり日本とは全く違う環境で生活することは初めてでした。最初は慣れない部分もありましたが、タイの学生のサポートやホームステイ先のホストファミリーをはじめとする多くのタイの方々の優しさや温かさを感じることができ、二週間があつという間で忘れられない思い出になりました。またこのプログラムを通して地域開発について学ぶことができ、これからの学習へのモチベーションにも繋がりました。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

このプログラムはフィールドワークを通じて自分で見て体験して学ぶことが出来ます。少しでも興味があればぜひ参加してみてください。不安もあると思いますが、二週間という短期間でも濃く忘れられない経験が出来ると思います。そしてそれはこれからの学習や成長に繋がっていくと思います。



プログラム名 < タイで学ぶ地域開発とツーリズム > ③

国・都市名：タイ（バンコク、コンケン）

名前： 山内 康平

専攻： 国際専攻

参加時回生： 2回生

参加時期： 2018年8月19日～8月31日

1. プログラム参加を決めた動機

私が今回、タイで学ぶ地域開発とツーリズムのプログラムに応募した理由は、大きく分けて三つあります。一つ目は、日本の瀬戸内海地域における観光事業や地域開発による地方創生に非常に興味を持っていることにあります。二つ目は、過去に一度タイを訪れた経験があるのですが、それから6年ほどたった今、凄まじい成長を遂げている東南アジアの新興国であるタイではどのような変化が起きているのかという事を自らの肌で感じ、その比較をしたいことにありました。三つめは、国際志向の強い私がこのプログラムに参加することによって将来に向けてさらに知見を広げ、グローバルかつ発信力のある人間になる事ができると考えました。昨年のこのプログラムはいわゆる私たちに名の知れた街ではなく、田舎の地域で実施されました。これは非常に貴重な体験です。なぜなら自分一人ではこのような場所にはなかなか行くことが出来ないからです。私はこのプログラムの中で、タイの地方がどういう取り組みで発展し世界へ名前を売り出しているのか、また、なぜ3000万人を超える外国人がタイを訪れるのかという疑問に対して、肌で感じてその情報発信能力を日本へ持ち帰り

たいと考えました。また、このプログラムには英語で自らの考えや主張を表現するプレゼンテーションを行う機会があります。将来、英語で円滑に自らの考えを伝えたい私にとって貴重な体験であり、またその能力の向上を図ることが出来ます。そしてそれらの経験を通して学んだ策略や考えを日本の地域観光復興に向けて応用したいと思っています。

私は瀬戸内海に面した広島県出身ですが、海にたくさんの島々が浮かぶ瀬戸内海ほど美しい景色は世界中探してもなかなか見つからないと思っています。このような観光資源が他にもいくつも眠っているのにその PR 力が弱いためにインバウンドの観光客が増加していません。こういった問題を解決できる能力を獲得することは一つの大きな目的でした。また、私は国際協力団体に所属しており、カンボジアへの教育支援に注力しています。同じ東南アジアでもタイとカンボジアではどのような違いがあるのかも体験して、その経験を所属団体の活動にも還元したいと考えました。

2. 授業・実習の内容

授業・実習の方法は基本的に実地調査でした。バンコク滞在時は、NIDA(タイ国立開発行政大学院大学)へ訪問し、当



院の教授から世代間のギャップについての講義を受けました。その後、日本の学生から長浜と信楽のまちづくりについてのプレゼンテーションを行いました。また、バンコクの開発が急速に進んだ時期に建てられた集合住宅及び集合団地の視察を行いました。日本にも同じような事例があり、急速な発展期には都市近郊に多くの集合団地が建てられるのですが、いずれ使われなくなり団地一帯が過疎化するという現象が起こっています。その状況を肌で感じ、今後まちづくりなどを考える際の一つの予備知識とします。バンコクからコンケン県へと移動した初日には、コンケン大学で、フィールドワークに協力してく

れる現地の学生と交流をしました。現地の教授の方などから、コンケンについての基本的情報と問題・課題・改善策などの講義を受けました。続いて、プログラムの期間内で視察する村の基礎知識についてレクチャーを受け、その後フィールドワークのためのコンケン大学の生徒と立命館の生徒の混合チームを2つ作りました。事前講義の内容から、疑問点や改善策などを洗い出し、それぞれの村への質問等を考えます。ここまでの実地調査までの大まかな準備です。翌日から、2チームに分かれてそれぞれ、1日2村のペースで実地調査を行います。初日は、現地の村にホームステイします。様々な出し物を行い、村人の方々と交流します。非常に親切で、現地生活を存分に楽しめます。当村及び、以後の実地調査で訪れる村では、まず、村やグループのリーダーの方から説明を受けます。次に、その予備知識を基に、村を見学して回り、製造過程の体験を行います。最後に、説明内容や見学・体験等において目や耳で感じた疑問や事前に考えていた質問を行います。このような段階を各村で踏み、理解を深めてゆきます。フィールドワークの最終日は NIDA 内にある施設を2チーム合同で視察します。調査方法は上記と同様です。最終日は各村の調査結果についてプレゼンテーションを行います。タイムスケジュールの面でも視察内容の面でも非常に密度が濃く、今後まちづくりを考える際に優良な考える材料になります。



3. 生活（授業・実習以外の様子）

まず、最も日本と違うと感じた文化は食事です。辛いものが非常に多いです。しかし、多くの場合日本人の舌に合うように辛さを抑えてくれるのでほとんど心配は必要ありません。もし辛党の方でしたら、ナイトマーケット(市場)などに行けば本当の辛さを体験できます。これは日本では味わうことのできないタイならではの魅力の一つです。また、親切な人がとても

多い国です。今回交流した学生や教授の方はもちろんのこと、訪問先の村の方々や偶然立ち寄る店の方々、皆さん非常に親切ですし、陽気な方が多いです。居心地も雰囲気もとてもいいです。学生たちも夜ご飯などにも誘ってくれますし、たくさん話しかけてくれます。初日から友達のような感覚で話すことができますし、とにかく楽しくコミュニケーションを取ることができます。またその繋がりは意見交換などの多い実地調査の際にも役に立ちます。また、日本人からすると東南アジアと聞けば「暑い地域」というイメージがあると思いますが、実際の気温は日本の真夏の方が高いです。体感温度も同様です。バンコクでも日本の真夏より2~3℃低いですし、フィールドワークを行うコンケンも日本より5℃以上低いです。カラッとしており非常に生活しやすい気温です。

4. 現地での交流の状況

上記のように、タイの方々はみな親切で、一緒にいて楽しい上、「壁」を感じにくいです。私たちが困っていても必ず声をかけてくれますし、知らないところは案内してくれますし、私たちが英語をしっかりと聞き取ることができなくても日本人の理解できるようにわかりやすく意識してくれます。ホームステイなどでも、様々な出し物や体験を提供していただきました。非常に親切で居心地が良かったです。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

まず、身についたことは主に2つあります。1つ目は上記にもありますが、行動記録をとる習慣が身につくことです。実地調査を行っていない人には情報がなければ何もわかりません。その情報のうち、基本情報と呼ばれるものはこの行動記録から作られます。料理で例えるなら、まな板や包丁といったところでしょう。すべての情報の土台となるものです。これらを的確に記録できると、その後の調査や活動がより濃いものになり、理解しやすくなります。社会に出ると当たり前のように求められる要素ですが、大学などではあまり取り扱われないため非常に貴重な体験であり、また、何度も調査を行うことで確実に身につきました。2つ目はコミュニケーション方法です。タイの方は皆、日本人に対して日本人ファーストで接してくれ、常に気にかけてくれていました。また、英語でのコミュニケーションでもとにかく私たちの話や意見をよく聞いてくれます。また、日本人が理解できていない英語を自分なりに意識し、噛み砕いて説明してくれます。ご飯を食べることのできない子供のためにそのご飯をお粥にして飲み込みやすくしてくれるような感覚です。非常に頼りになりますし、このようなコミュニケーション能力を獲得すべきだと感じました。滞在時、また帰国後もこのようなコミュニケーションスタイルをできるだけ意識し取り組んでいます。少しずつできるようになっており、このプログラムがあってこそ身についた能力であると思います。

印象に残ったことは主に3つあります。1つ目は日本よりアクティブな人が多いということです。私たちが訪問した村の人々は多くが高齢の方であったにもかかわらず、非常に情熱的で、自分たちの村やその村の商品をどうやって売り出すか、また、どうやって村を活性化させるかということ真剣に考えています。日本にいて、地域活性化やそのために自ら率先して動く高齢者はそれほど多くはないと思います。この違いが一つ印象に残りました。2つ目は、日本と同じように格差が拡大しているということです。東南アジア最大の都市であるバンコクは、写真を撮るとわかるのですが、まるで東京を写真に収めているかのような錯覚に陥ります。それほど発展しています。しかし、日本における東京一極集中化と同じようにバンコクへの一極化が進んでいます。この都市部と地方の格差が日本と似ている点も印象に残りました。もう一つは、食べ物がおいしいということです。これは本当に個人的な感想なので万人に当てはまるわけではないかもしれませんが、美味しい物が多いです。補足ですが、もしゲテモノが食べたいという方がいればマーケットに駆け出せばすぐに手に入ります。チャレンジしてみてください。ソルティーな味わいです。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

このプログラムの他と違う点は、現地について理解することに加え、社会に出てからも必ず必要となる要素を身につけることができる点です。具体的には、行動記録をとることです。現地の状況が行った経験のない人にも伝わるように詳しい状況を記録します。住所、首都や主要都市からどのくらい離れていて何時間かかるのか、交通手段、気温、湿度、高度、村の人口、人柄など、多くの項目があります。これらは日本へ帰国後にフィールドワークの結果を他者に



伝える情報として非常に重要な要素であり、将来、海外出張などの際、必ず必要になります。そういった将来を見据えた上で必要な能力を身につけることができる点がこのプログラムの一つの大きな魅力です。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

こういった留学プログラムを含む様々な活動に興味がある皆様に僭越ながらメッセージを書かせていただきます。私が最も言いたいことは、“経験したものの勝ち”ということです。百聞は一見に如かずとよく言いますが、まさにその通りで、経験は何にも代えられないと思います。タイに実際に足を運んで実情を知ったからこそ、理解し人にも話すことができます。そして一つ一つ経験を積むことで、自らの知見を広げることができます。知見を広げるということは自らの中の価値尺度を増やしていくということです。価値尺度が多様化すれば、多くの人とのコミュニケーションが円滑になります。これからますますグローバル化が進行する中で、相手の考えや文化や価値観などを的確に把握してコミュニケーションを取れる能力は必ず求められてきます。そのための準備にもなります。カンボジアの農村部に私の支援する中学校があります。そこの子供たちに夢を聞いたところ、約100人全員が警察官と学校の先生のどちらかを回答しました。これは彼らがその二択以外の職業を知らないということです。そのため、子供たちの知見や夢を広げることを目的として、職業体験を行っています。消防署や市役所、ツアーコンダクターなどを訪問し、実際に職業体験することでより子供たちは将来の選択肢を増やすことができます。実際に、職業体験時と同じ職業についての卒業生もあり、“知る・体験する”ことがより自分の可能性を広げることを証明しています。長くなりましたが、このプログラムへの参加は自らの将来の選択肢を広げる一助となります。興味を持った方は是非でも参加してみてください。

プログラム名 < 英語で学ぶアジア・中国ビジネスの最前線 > ①

国・都市名： 中国（上海）
名前： 内藤 大幹
専攻： 国際専攻
参加時回生： 2回生
参加時期： 2019年9月15日～9月24日

1. プログラム参加を決めた動機

私は将来、海外に進出している日本企業で働きたいと思っており、中でも外交関連の仕事をしてみたいと思っています。日本には世界的に進出している一流企業がたくさんあり、その影響で日本は国際化が進んでいます。中国も同様にグローバル化が進んでいますが、私はその理由である中国の企業や経済についてあまり知りません。外交系の仕事をするにあたって他の国のビジネスについて知っていることが前提であり、日本からすぐ近くにある中国のビジネスについては最低限理解しておく必要があると考えています。中国にはどんな企業があるのか、日本にどんな影響を与えているのかをほとん

ど分かっていないため、このプログラムを通して学びたいと思いました。たしかに日本にいても本やウェブサイトを使えば中国の経済状況を知ることができますが、実際に自分と同世代の学生に会って話を聞き、意見を持つことでより理解できるのではないかと考えました。

2. 授業・実習の内容



担当の先生方は皆英語が堪能で丁寧に教えてくださりました。全三回の授業では主に昔の中国の経済や金融、歴史だけでなく中国がここ近年でどれくらい著しく経済的に成長し、発展したのか討論を通して学びました。それ以外にも中国人のビジネスマナーや接し方、更には中国の茶道も教わりました。授業は三時間ほどだったがすべて英語での授業ということもあって、いつも以上に集中する必要があり、聞き取れない部分もたくさんありましたが、授業の最後にある議論を行う時間で自分の意見を言うことができました。今回のプログラムでは質問をするということに重点を置いており、自分の意見を言うだけでなく、

他人がどのような質問をしているのかも聞くことで内容の濃い質問を考える力がついたと思います。また経験するということが意識し、中国独自の茶道の体験も楽しむことができました。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

昼食や夕食は基本的には自分たちでとっていました。近くに大きなモールがあり、そこにあるフードコートで食事したりスーパーで夜食や翌日の朝食を買ったりしました。今回のプログラムは自由行動の時間が多かったので参加しているメンバーと観光に行くなど、交流できる時間がたくさんありました。企業訪問や授業の合間には講義や授業中で聞けなかった質問をしたり世間話をしたりしていました。

4. 現地での交流の状況

日程の関係で今回は半日のみの交流となりましたが、現地生との交流は有意義だったと思います。現地生は全員女子でしたがみんなフレンドリーに接してくれ楽しく会話できました。英語力は高く感じましたが通じたので良かったです。別れを惜しむくらい、半日間しか関わっていなかったとは思えないほどお互い仲良くなれたと思います。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

今回のプログラムで特に印象的だったのが立命館 OB との会合です。OB の方々がおっしゃっていたのは海外に出て経験をする、そして大学生のうちにはできないことはとことんやるという二点が大切だという事でした。自分の慣れた環境から離れるのには相当勇気がいるが、人間として成長できる機会が海外には多くあり、人との出会いをより大切にできると感じました。そして社会人になれば出来ることも増えるけど、大学生として送っている今の時間を大事にすることも必要だと学び、留学にしても言語を勉強するにしても自由な時間が多い今だからこそ出来ること、やりたいことに触れておきたいと思いま





た。またOBの中に会社の総経理の方がおり、個人的にはその方からトップの人間として大切にすべき事柄を学べたことが大きな収穫でした。将来上の立場に就いたとき、上の人間として部下を信頼し、部下を引っ張っていくのではなく基本は部下に任せ、ここぞという場面で助け舟を出してあげるといったスタンスが必要だと感じました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

今回のプログラムに参加した大きな利点は上海支部の伊藤忠商事を訪問できたことです。企業訪問で実際に現地の人のお話を聞くこと

はとても貴重な体験になりました。一流総合商社に伺うこと自体が滅多にない機会であることは承知していたものの、現地で実際に働いている若手の方々のお話も新鮮でした。お話では当企業についてのみではなく、これからどういった人材が就職で有利になるのか、海外で活躍するために必要な心構えなども学ぶことができ、数年後の自分の理想像を描くことができました。たった10年で企業の立場は大きく変わっており、これからさらに変わっていくことが予想されます。つまり、社会の企業に対する人々のトレンドやニーズに着目することが大切だと感じました。また自分と違うことを受け入れられる心と環境への適応能力も海外で働く際に重要だということも習いました。就職活動が控えるこれらに向けて、今回の企業訪問はとても有意義な時間となり、実際現場で目に焼き付けた光景をしっかりと覚えておきたいです。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

プログラムに参加するにあたりいくつかアドバイスがあります。1つが中国語です。いくら英語が共通言語だからと言っても中国は依然英語の浸透率が低く、ローカルな地域では中国語が必須になります。軽くでもいいので簡単な挨拶や数字は覚えておいた方がいいと思います。2つ目が中国のネットワーク環境です。中国ではGoogle全般が使えなかったため日本で使えるインターネットサービスは基本的に使えません。LINEやInstagram等のSNSも使えないため、事前にWeChatというアプリをインストールすることが望ましいです。また空港で借りられるポケットWi-Fiがうまく機能せず、使える容量が予想以上に少なかったため、プレゼンテーションを作る際にも電波環境を考える必要があります。プレゼンの資料など、準備できる範囲であらかじめ日本で用意しておいても良いと思いました。このプログラムはほかの留学プログラムと比べて自由行動の時間が多くあり、メンバーとの交流も深められます。そして企業訪問やOBとの会合、同世代の中国人学生との交流など貴重な経験も得られます。十日間という短い期間ですが、夏休みの終わりに自分の将来と向き合うことができる絶好の機会だと思うので是非参加してみてください！



プログラム名 < 英語で学ぶアジア・中国ビジネスの最前線 > ②

国・都市名： 中国（上海）
名前： 木村 綾花
専攻： 経済専攻
参加時回生： 1回生
参加時期： 2019年9月15日～9月24日

1. プログラム参加を決めた動機

動機は、短期留学という経験を通して、自分の英語力がどれくらいなのかを知りたかったということである。英語を学んできたけど実際どれくらい話せるのか、普段の応用ができる場としてこの短期プログラムに参加した。また足を運んで自身で中

国という国の文化に触れてみたかったからである。中国という国に以前から興味があり、第二言語として中国語をとっていることから、親近感を持ってこのプログラムへの参加を希望した。

2. 授業・実習の内容



授業は全体で3回行い、それぞれに違う先生が担当して下さった。授業は全て英語で、ディスカッションをする時間があったり、中国のお茶会を学ぶ授業では実際に体験させていただいたりした。授業では積極的に質問することが求められ、分からないことがあっても何がわからないのか、どうしてわからないのかなどを考えさせられた。

3. 生活(授業・実習以外の様子)

授業や企業訪問などの実習以外の時間は基本自由で、限られた時間をどのように過ごすかを考える必要があった。上海の観光地に行くもよし、上海以外の場所に行ったりもできた。現地では何を食べ、何を買い、どのように楽しむかも自由で面白いと

私は思った。私は、食事においてせっかく上海に来たのだから現地のものを食べたいと思い現地の人だけが知っているようなお店を探して不安ながらも入ったりした。美味しいか美味しくないかは入ってみないと分からなくて、また中国での注文の仕方や、メニューも何となくでしか予想できなくて大変だった。限られた時間だったので、できるだけ観光地にも行ってみたいと思って外に外に出るようにした。日本ではできない経験ができたと感じている。



4. 現地での交流の状況

交流に関しては日本でも言えることかもしれないが、積極的に自分から動くことによって交流の輪は広がると感じた。現地の学生とプレゼンテーションを通して交流をした時、休み時間や授業の合間の時間などに自分から話しかけると向こうの方も快く話してくれて英語で会話をする事ができた。お互いに英語が第二言語ということもあり多少伝わらない部分もあったが、それでも違う手段を探してコミュニケーションを図るなどで会話できた。現地のお店では私たちが簡単だと思っている英語であっても伝わらなかつたり、頑なに英語を話さない店員さんもいたりして困った。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

今回の上海短期留学を通して身についたことは、自分の英語力を知れたことによってこれからどうしていくべきなのかを考えることができたことと、自発的に動くということである。考えて行動することももちろん大事ではあるが、思い立ったら行動することも必要かもしれないと思った。そして私は今回、自由時間の過ごし方もそうだが、企業訪問をしたときに興味を持ったり、気になったことがあれば質問をするように心がけて行った。

印象に残ったことは伊藤忠商事への企業訪問である。1回生でこのような経験をできたことはとても勉強になった。1回生じゃなくても2、3回生でもためになったと感じると思う。上海で勤務している方々の現地の声を聞くことができ、総合商社について

てや海外で勤務することについて知れた。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

英語での授業、現地の人との交流だけでなく、企業訪問という経済学部らしいプログラムも用意されていて10日間という短い滞在時間ではあったが、充実した時間を過ごすことができたことである。

さらには、いい仲間に出会えたことである。このプログラムに参加していなければ絶対に交わることのなかった人が集まって一緒に10日間を過ごし、お互いのことについて知れて仲を深めることができた。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

もし少しでもこのプログラムに興味があるならぜひ参加してほしい。長期留学はまだできそうにない、、、という方がいたら、まずは短期から始めてみてもいいと私は思う。日本でできない経験を大学生という長いようで短い時間を使ってしてほしいと思う。私もこれからも新しいことに挑戦していきたいと考えている。10日間で英語力が凄まじく向上するといった期待はできないが、英語の勉強をしようという良い刺激なるのではないかと思う。



プログラム名 < 英語で学ぶアジア・中国ビジネスの最前線 > ③

国・都市名： 中国（上海）
名前： 藤崎 由香子
学科： 国際経済学科
参加時回生： 3回生
参加時期： 2018年9月11日～9月18日

1. プログラム参加を決めた動機

私は、留学に参加するまで中国に関して一般的な知識しかなく、あまり特別な興味はありませんでした。そして、固定概念といわれるイメージも中国に対して持っていました。しかし、その知識はどれほど合っていて、また自分の持っている固定概念はどれほど間違っているのかを確かめてみたいと思い、上海への留学を希望しました。その他にも、プログラム内容で日系企業（伊藤忠商事）訪問や、OB・OG 訪問の機会も設けられていたため、そこに魅力を感じて応募しました。



2. 授業・実習の内容

私がこのプログラムで印象的だった事のひとつが、伊藤忠商事・伊藤忠物流の見学ができたことです。実際に上海支社の伊藤忠商事の OG・OB の方に会うことができ、また物流の現場を自分の目で見ることはとても貴重な経験となりました。特に中国の物流の仕組みは日本と比較した時、大きく進んでいるように感じました。具体的には、トラックの管理システム、顧客対応の仕方、荷物の追跡システムなどです。またこのような見学以外にも中国人の先生の講義や、中国人学生とのディベートなど、とても充実していました。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

午前中や夕方からなど自由に行動できる時間は何度かありました。その時間内で観光地に行ったり買い物をしたりしました。基本的に食事に関しては自分達で用意し楽しみました。物価が日本に比べて安いと、少ないお金でもとても満足のできる食事ができました。

また滞在に関しては寮での生活でした。寮では2人1組で部屋を分けられ、共同のランドリールームなどもあったため洗濯はできました。

4. 現地での交流の状況

私たち日本人学生と現地学生との交流の機会は何度もありました。同じ教室で授業を受け、ディベート、プレゼンテーションなどを行いました。そこでは、中国人学生と日本人学生のレベルの差を顕著に感じ、自分の知識の少なさ、発言力のなさ、英語力の低さなどを恥ずかしく思うとともに、自分もそれらの能力を本気で高めたいと刺激を受けることができました。また授業だけでなく、一緒に昼食や夕食を食べる機会があり、そこで気軽に話すことができました。この食事の時間はとても楽しく有意義でした。同世代の中国人学生と話すことによって、互いに文化や考え方の違いが分かり、また共通点も発見することができました。やはり本や授業ではなく実際に見て話を聞くことは全く違うと感じました。特に私は、きょうだいの話が印象的でした。中国ではこれまで一人っ子政策が行われていたため、同世代の学生は一人っ子ばかりなのは当たり前ではあるけれど、実際に全員が一人っ子であったのはとても印象的でした。また、きょうだいがいる日本人学生を見て、珍しそうにしていた中国人学生の表情もとても印象的でした。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

私は、このプログラムの短期間で多くのことを学び、感じることができました。その中で最も重要だと思ったことは、自分が手にする情報をそのまま鵜呑みにせず、まず自分で考えるということです。これはこれまでの大学生活の中でよく言われたことではありましたが、身をもって感じることができました。固定概念を強く持っている事柄であればあるほど難しいことではありますが、これからも意識して過ごしたいと考えています。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

プログラムに参加して最もよかったと思うことは、自分が勝手に思い描いていた中国のイメージが正しい意味で変えられたことです。自分が思っている以上に、中国は進んでいて、スマートフォン一つでお金のやり取りを行うこと、また電気バイクばかりであったことが特に印象的でした。現金がいらぬ社会は今の日本では想像しづらいけれど、実際に中国では、お財布は必要なくなっており、ガソリンの使うバイクはほとんど見かけなく、少し日本とは違った面を見ることができました。まだまだインフラ面などで整っていない部分はあるけれど、3年後や5年後に行ったらまた印象が変わると思うので、それとても楽しみです。プログラムを通して中国のイメージを変えることができ、また次の楽しみをつくることができたと感じています。



7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

このプログラムでは、中国人学生との交流、日系企業の訪問、上海在住のOG・OBの方々との交流、など短期間でも幅広く経験することができます。中国に興味を持っている方もそうでない方も、充実して多くのことを学べるプログラムだと思います。是非、迷っている方は応募して、行ってみることをお勧めします。

プログラム名 < 英語で学ぶアジア・中国ビジネスの最前線 > ④

国・都市名： 中国（上海）
名前： 林田 碩人
学科： 国際経済学科
参加時回生： 3回生
参加時期： 2018年9月11日～年9月18日

1. プログラム参加を決めた動機



私が上海に留学するのを決めた要因は中国という国に興味を持っていた事が大きいと思います。立命館大学には大勢の中国人留学生がいます。実際、私も中国人の非常に仲の良い友達がおられ彼から毎日良い刺激をもらっており、中国に興味を持ち始めました。また、中国はアジアのみならず世界的に見ても経済大国であると思います。日本の近隣諸国の1つであり、世界経済に多大な影響を与えている中国に大学生の間に訪れ、自分自身の視野や考え方を広げる良い機会だと思いこのプログラムに応募しました。実際に応募して非常に良かったと感じています。

2. 授業・実習の内容

授業は中国の文化・ビジネス・ファイナンスを学び、その内容を現地学生と英語で答弁する様な形式でした。全て英語で行われるので中国語を話せなくても大丈夫です。授業では中国について広く学ぶ事ができ、非常に興味深かったです。大学の他のキャンパスで授業を受ける機会もあり、そこで行われる現地学生との討論会やキャンパスツアーなどで中国の大学の雰囲気を感じる事が出来ました。授業の時間もそれほど長くないので集中して取り組む事が出来ると思います。授業レベルとしては、立命館大学で行われる英語の授業より確実に難しいです。日常会話の様な英語ではなく経済の専門用語などが頻繁に授業に出てくるので、事前の予習が非常に重要になってくると思います。授業では全員に意見を求める事が求められるので、授業内容をしっかり理解しておかないと厳しいと思います。

最終日には授業で学んだ事を発表する機会があり、1グループ数名に分かれて、グループごとに、ある議題について討論しプレゼンテーションをします。発表時間はそれほど長くないですが準備する時間が限られているので、完結にまとめる必要があると思います。また発表の最後に質疑応答があるので、発表内容をしっかり把握しておく事をお勧めします。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

授業以外の生活は基本的には自由です。留学期間中は大学の寮に泊まるのですが、寮からすぐ近くの所にコンビニやスーパーマーケットがあり食品や日用品を買う事が出来るので心配ないと思います。寮には洗濯機もあるので洗濯も問題ありません。寮は留学生寮なのでとても国際色豊かで、他国の留学生とご飯を食べたり話したりと非常に良い経験が出来ると思います。また、寮から歩いて10分くらいの所に地下鉄の駅があるので上海の観光地に行く事も可能です。実際、私も地下鉄を使い色々な所に行きました。運賃も日本と比べると安く、また駅自体の造りも非常にシンプルなので迷う事もないかと思います。しかし、中国ではネット規制があり街中でネットが使えないので、あらかじめ調べておく事をお勧めします。



食事面では事前講義などで注意するよう言われていましたが、自分の感覚としてはそれほど神経質にならなくてもいいと感じました。同じアジア圏の料理なので味も比較的日本人好みだと思います。万が一食事が合わなくてもスーパーなどに

日本製の食品も売っているの、心配しなくていいと思います。

もう一つ、中国への留学を考えている皆さんがもっとも心配している事は治安だと思います。日本では中国に対する報道が偏っているの、どうしても悪いイメージを抱きやすいですが、例えば大気汚染の問題などが頻りに報じられていますが日本とそんなに変わり無いと思います。私も最初は少し不安でしたが治安も良く安心して留学する事が出来ました。但し治安が良いと言っても海外なので、貴重品の管理には注意した方がいいと思います。

4. 現地での交流の状況

本プログラムは約 10 日間の短い留学なので、消極的になってしまうと現地の学生とあまり交流出来ないと思います。逆に言えば積極的になれば非常に有意義な現地交流が出来ます。授業の一環で現地学生との英語のディスカッションがありその後雑談などが出来るので、自分から積極的に話しかけるべきです。現地学生は英語レベルが非常に高いので学ぶ事は多いと思います。授業ではなかなか話にくい人は、寮で他の留学生に話しかけるのも良いと思います。前述の通り留学生寮なので非常に国際色豊かです。授業とは違う雰囲気の中、リラックスしてフランクに会話する事が出来ると思います。私は上海以外にも留学を経験したのですが、現地で交流する機会を作るのは自分自身次第だと思います。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

この留学を通じて印象に残っている事は、日本ではなく異国の地で仕事をしている日本人の姿です。本プログラムには、海外に進出している日系企業への訪問や立命館 OB・OG 会に参加する機会があります。今回は大手総合商社の一つである伊藤忠商事株式会社に訪問しました。3回生の自分にとって総合商社の海外駐在の方々の話聞いた事は非常に良い経験になりました。当日は伊藤忠商事上海オフィスを訪問し立命館大学卒の社員の方々に対応に当たってくれます。そこで日頃の商社での仕事内容・中国での暮らし・学生時代にやっておいた方がよい事など色々な事を聞く事が出来ます。また数グループに分かれての雑談会もあるので色々な方々の話も聞く機会があり商社に興味が無い人でも良い経験になると思います。

午後には関連会社の伊藤忠商事ロジスティクスに移動して工場やコールセンターを見学します。ここでも質疑応答の時間があり物流の事など気になった事を質問する事が出来ます。また、立命館 OB・OG 会では現在中国で仕事をされている方々との座談会になります。皆さんそれぞれ違った経歴をお持ちでとても個性的で気さくな方々でした。ここでは色々な職



種の方々のお話を聞く事が出来るので、2 回生にとってもこれからのキャリア形成に役立つと思います。また、座談会の後は食事会もあるのでここでは食事を交えながら深い話も出来ると思います。

私はこの 2 つの訪問で、海外で活躍する日本人の方々のおたくましさを見る事が出来た様に思います。そして良くも悪くも日本人離れしていると感じました。日本人は一般的に消極的だと言われますが、海外で活躍されている方々は全員積極的に自分達の仕事に誇りを持って取り組んでいました。この様な経験はなかなか出来る事ではないと思います。この訪問の機会も上海

プログラムの大きな魅力の一つだと思います。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

プログラムに参加して良かった事は自分自身の視野や価値観が以前より一層広がった事だと思います。この留学を通

じて中国の印象は大きく変わりました。前述した様にそれは報道による影響が大きく関係していると思います。日本の中国に対する報道は偏っていると思います。それはもしかすると中国でも同じかもしれません。それは政治的な問題が要因かもしれませんが実際のところはわかりません。あくまでも私の意見ですが、仮に国家間が争っていてもそれぞれの国民が互いの事を毛嫌いする必要は全くないと思います。言語や文化が違えば考え方に違いが生じてくる事は必然的だと思います。しかし、お互いをリスペクトする事を忘れていなければ必ず物事はうまくいくと思います。そしてこの様に感じさせてくれたのは留学を通じての経験だと思っています。海外に行かなければ分からない事は絶対にあります。私はこれまでに数回留学をした事がありますが毎回違った刺激をもらえるので、今回上海プログラムに参加する事が出来て良かったと感じています。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

私が後輩の皆さんに偉そうにアドバイス出来る立場ではありませんが 1つだけ言えるとしたら、もし留学するか悩んでいる人がいればそれは絶対にすべきです。留学をして損する事は 100%ありません。もちろん異国の地での生活はうまくいかない事の方が圧倒的に多いです。しかし、それが当たり前と思えば自然と気持ちが楽になってくると思います。そうすれば日々の生活が楽しくなり留学生活が有意義に感じられると思います。海外での経験は必ずどこかで生きてくると思います。行かなければ分からなかった事は絶対にあります。そして行って自分の目であらゆる物を見て感じる事が大切だと思います。私は皆さんが来年上海プログラムに参加し素晴らしい経験が出来る事を願っています。



プログラム名 < 英国で学ぶ英語と日系団体・企業のビジネス > ①

国・都市名： イギリス（ロンドン）
名前： 安田 航貴
専攻： 経済専攻
参加時回生： 2回生
参加時期： 2019年3月3日～3月17日

1. プログラム参加を決めた動機

プログラム参加を決めた動機は三つありました。一つ目は国際舞台であるイギリスにおいて日系の団体や企業がどのような役割を担い、またそこで働く人がどのような思いで働いているのかを知るためです。ヨーロッパの中心ともいえるイギリスで、日本がどのような影響を与えているのかを学ぶことは、国際社会における日本の立ち位置を理解するうえでも重要だと考えていました。二つ目はイギリスの社会において BREXIT がどのような影響を与えているのかを実感するためです。BREXIT は今後の EU とイギリスの関係性を占う大きな要因の一つで、国民投票以降興味があった上に、イギリスの国民がどのような考えを持っているのかが気になっていました。三つ目はイギリスという多様性社会の中で、自身の国際的な寛容性と社会に対する視野を広げることで、よりグローバルな人材になることができるのではないかと考えたからです。イギリスは世界中から観光客が来るのはもちろんのこと、多くの人種の人々が暮らしています。このような環境のもとで自分が何を感じ、どのように生活していくのかを考えることはとても良い経験だと考えました。



2. 授業・実習の内容

午前中は語学学校にて英語の学習を行います。授業内容はクラス、先生によって変わりますが、私のクラスは主に文法内容をスピーキング力に結びつけるような授業内容でした。フォーマル、インフォーマルな表現の区別やアメリカ英語との違いなども学べます。英語を英語で勉強するため、新たな視点で理解することもできると思います。



午後は企業訪問です。私たちは立命館英国事務所、在英日本国大使館、野村総合研究所、在英日本商工会議所、NTT ヨーロッパ、欧州三菱商事を訪問しました。内容は企業、団体ごとに異なります。企業の方とディスカッションを行うことが多く、イギリスと日本の働き方、仕事に対するメンタリティの違いなど、経済面だけでなく、生活・仕事の両面を知ることができました。また企業の方々が海外に進出する意義や、それぞれが抱える責任感を感じ、学び取ることができました。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

スケジュール次第ではありますが、企業訪問がない日は語学学校の授業が終わった後は自由時間です。この時間は自分次第ですので、語学学校で知り合った海外の友人と過ごすのも、自分が行きたい場所に行くのもよしです。ホームステイ先の門限や夕食のルールを先に話し合っておくとよいと思います。私のホームステイ先はメールで帰る時間と夕食の有無を伝えるルールだったため、語学学校の友人と夕食をとったり、週末はロンドン郊外まで行ったりと有意義に過ごせました。

4. 現地での交流の状況

クラスの雰囲気と自分次第だと思います。私の場合は、授業後にランチに行ったり、パブでサッカーの試合を見たりと、予定が合う日はコミュニケーションをとっていました。最終日には友人が farewell party として食事を開催してくれました。もちろん、ロンドンでの時間は限られているので、時間の使い方は自由です。しかし交流面での良いところはお互い英語を学んでいる身なので、多少のミスを恥じることなく、お互いに会話できる場所だと思います。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

異なる環境に対する対応力はより向上したと思います。多くの人種の人たちと会話したり、週末に自分自身で遠出してみたり、私はイギリスという地にできる限り順応しようと試みました。レストランなどで会話をしたり、現地の人と一緒にテレビでサッカー観戦をしてみたり、多くの刺激を得ることができました。また企業の方々の話も興味深かったです。常に日本とイギリスの関係性を考え、いかに事業を進めていくのかを深く考えていたのが印象的でした。海外で働くというのは相互関係を理解したうえで、今後の関係性を予測し最適な方法を考えていくことが重要であると感じました。BREXIT に関しては私たちの滞在中は大きな動きがあまりなかったのですが、帰国後に 100 万人規模のデモが起こりました。フリーペーパーや新聞では毎日 BREXIT に触れていたのやはり深刻さは感じました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

アジア圏とは異なる社会環境を体感できたことです。歴史と独特な街並み、そしてイギリス人個々の持つ性格が作り出す雰囲気はとても優雅でした。またこの異なる環境の中で活躍する日系企業、団体の方々のマインドや考え方は今後のキャリア選択においても参考になりました。ヨーロッパにおける政治、経済の中心でもあるイギリスにおいて、語学研修だけでなく企業訪問ができたことが、このプログラムの良いところであると思いました。



7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

期待して参加してください。スケジュール的にもメリハリがついて集中してプログラムに臨めます。アジア圏とは異なる環境を体験できる機会はあまりないと思うので、学生時代に経験できることはとてもよいことだと思います。

プログラム名 < 英国で学ぶ英語と日系団体・企業のビジネス > ②

国・都市名： イギリス（ロンドン）
名前： ZHANG YIHAN（チョウ イカン）
専攻： 経済専攻
参加時回生： 1回生
参加時期： 2019年3月3日～3月17日

1. プログラム参加を決めた動機

このプログラムに応募した理由は二つあり、一つ目は海外に興味を持っているからです。留学生として立命館大学に入学したこともそのためです。今までカナダとオーストラリアに行ったことがありますが、欧州には行ったことがありませんでした。イギリスは欧州の中でも古くから歴史や文化が発達した国なので、是非ともこの機会に行ってみたいと思いました。

二つ目は、プログラムの実施時期が春休み中の二週間で、正課や資格の勉強にほぼ影響がないと感じたからです。同時に、日系企業・団体の見学ができるのも魅力的なポイントだと思いました。

2. 授業・実習の内容

英語の授業はフランシス・キングという語学学校で行われました。事前にクラス分けテストがあったので、皆それぞれ自分のレベルに合ったクラスに入りました。語学学校には日本語が通じる先生もいたので、学習と生活に関して悩みがあれば相談できる環境がありました。

自分が入ったクラスは少し難しい方で、英語の文法を教わりました。そのすべてが英語での説明だったのでなかなか面白かったです。クラスには他にイタリアやドイツからの学生がいました。そこで異国の友達もできました。クラス全体の雰囲気はとっても活気的なもので、いつもみんなで仲良く英語を使って話しました。

2週目には企業訪問をしました。立命館英国事務室を入れて六つの企業を訪問しました。どの企業も素晴らしい話をし下さり、すごく丁寧に私たちからの質問に答え下さいました。皆色々なことについて聞きました。例えば皆が関心を持っている就職についてたくさん質問しました。このプログラムは国際的な仕事環境を実際に見てみたい人におすすめします。



3. 生活（授業・実習以外の様子）

私のホームステイ先は少し学校から遠い所にありましたが、ホストファミリーの人たちはとっても優しくかったです。たまに夜遅く帰る場合は、最寄り駅まで迎えに来てくれました。イギリスの食事はいつも美味しくないと言われていますが、ホストマザーが用意してくれた夕飯は美味しかったです。

参加前は気付きませんでしたが、このプログラムは自由時間が非常に多かったです。一週目の午前中は授業で、午後が自由時間だったため、この時間を利用して私は五つの博物館と二つの教会へ行きました。ロンドンの博物館は全て無料で入場出来ますし、どれも素晴らしいものを展示しているので、目まぐるしいくらい見学ができます。二つの教会はどちらもイギリスの代表的な教会で、今でも使われています。運が良ければ聖歌隊の歌や神父様のお祈りも聞こえます。実際に行ってみて初めて知るイギリ

スの文化はたくさんありますし、すごく感動しました。歴史や文化について興味がある人なら是非！

4. 現地での交流の状況

学校とホームステイ先は全て英語の環境でしたが、交流に支障が出る程難しくはありませんでした。学校の先生はできる限り簡単な英語を使って授業してくれました。ホストファミリーの人たちも何回も留学生を滞在させている経験があったので、積極的に話しかけてくれました。特に私のホストマザーはとてもお喋りな人だったので、私たちは料理からイギリスの政治まで色々な話題について話しました。交流は難しいことではありません。大事なものは口に出す勇氣です！

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

一番印象に残ったものはやはりイギリスの文化です。実際に行っただけで体験できない文化や雰囲気は街中に溢れていました。特に教会へ見学に行った時は、イギリス特有のゴシック建築をたくさん目にしました。教会の建築は長い歴史や文化的な価値があり、今でも人々の祈りや懺悔を受け入れ教会としての役割を果たしています。そのような場に行き、思わず心穏やかな気持ちになったのを覚えています。

このプログラムを通して身についたことは二つあります。一つは語学の学習への熱情です。プログラム参加前は、ある程度自分の英語力に満足していました。日常会話ができるなら問題ないと思っていました。しかし実際に行くと気付いたのは、その程度の英語力では、イギリスの文化と歴史を理解したくても無理だということです。そのため、更に英語を勉強したいと思いました。

もう一つは将来の目標です。一回生なので就職についてはまだ詳しく考えていませんでしたが、今回企業訪問したことによって確実な目標を見つけました。これからはそのために頑張りたいと思います。



6. プログラムに参加してよかったと思うこと

よかったと思うことはたくさんの人と出会えたことです。ホストファミリーから、同じくプログラムに参加した仲間まで、色々な人と出会い、話して仲良くなったのは本当に良かったと思います。

また、限られた時間の中でできるだけ多くのことをやりたい、体験したいという気持ちも大事ななと思います。今回自由時間が多かったのも、どうやって過ごそうかと考え時間を有意義に使う良い勉強にもなりました。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

この英国プログラムはすごく良いプログラムだと思います。プログラム内容を見て、例えば語学の勉強、イギリスの国自体、企業訪問など何でも良いので何か一つ興味があるものがあったら、是非このプログラムに参加してください！参加すれば必ずあなたの期待を上まわってくれます。



そして参加すると決めたら、渡航前の準備と調査はとっても大事です。特に自分が興味のある毎日のイベントなどは、できるだけロンドンに到着する前に決めておいた方が自由時間をフル活用できます。例えばロンドンにはよくパレエショーやサッカーゲームがあります。どれも行って見る価値はありますが、チケットは何か月か前から予約が始まります。事前に調べて用意しておかないと、せっかくの機会を逃すかもしれないので、そこは気をつけて楽しんでもらえればと思います。

プログラム名 < 英国で学ぶ英語と日系団体・企業のビジネス > ③

国・都市名： イギリス（ロンドン）
名 前： 谷野 百香
学 科： 国際経済学科
参加時回生： 3回生
参加時期： 2018年3月4日～3月18日

1. プログラム参加を決めた動機

私は将来、大雑把ですが、グローバルで活躍する企業を内側から支えるような仕事をしたいと考えています。私が海外に興味を持つようになったのは、中学生の時に初めて海外に行き、感じた「空の広さ」です。当時の私にとってはとてもシンプルに世界の広さを自分の中で強く認識した感覚であり、それが今でも海外に興味を持ち続けている原動力にもなっています。私がこのプログラムに参加しようと思ったのは、歴史が深く世界の主要都市であるロンドンにおいて語学学校で英語を学びつつも現地にある日本企業やその日本企業を手助けしているような機関に訪問し、お話を聞くことができるという今年からできたプログラムで、自分の将来に近づくことが出来るのではと考えたからです。

2. 授業・実習の内容



午前は語学学校に行き、同じように英語を学びに他の国から来た方達と学び、午後はこのプログラムに参加した立命生で現地の企業を訪れる、というスケジュールでした。

学校では能力別でクラスが分けられており、授業もリーディングの時間やスピーキングの時間、というように分かれてはいましたが、先生を中心にみんなで思い思いにわからないことを口にし、議論しながら授業を進めていく為、日本のように机に向かって勉強し、授業の仕方がきっぱり分かっているわけではあり

ませんでした。分からない英語の単語を別の意味の分かる簡単な英語で絵を用いたりして教えてもらい、習うことで、日本語で意味を理解するよりもその英単語がさす意味を直接的に理解することができ良いと思いました。

企業訪問では大阪ガスや日本貿易振興機構(JETRO)を訪れ、英国で日本の企業のために何を行っているのか、日本だけに絞らず海外に展開していくことの難しさや重要さなどを、現地で働く方の生の声を聞くことが出来ました。また、若い人の意見が聞きたいと、新しい事業を展開していくために私たちが考えたことをその講演中に企業の方へ向けて発表することもありました。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

現地ではホームステイでした。イギリス、特にロンドンは多様な文化の集まりの都市であり、いろんな国の生まれの方たちのお家に住むことになり、一緒に行ったプログラムメンバーもみんなそれぞれの家のルールがあり、出してくれるご飯も違います。それもこのロンドンに来て、多文化を理解する上でとても有意義な事だと感じました。私のホストファミリーはイギリス出身のお父さんとインド出身のお母さんでした。ホストファミリーは日本の事が大好きで、今までのホストとして数多くの日本人を受け入れているようで理解があり、優しく接してくれました。

また午後の企業訪問が終わると自由時間だったので、友達と計画を立てロンドンの観光もゆっくりする事ができました。日本とは違いますし、夜遅くは基本的に一人では歩かないようにし、危機管理も気を付けました。基本的に物価が高いので、何をしても高くつきますが、どこでもクレジットカードが使えるので、基本現金は少額しか持ち歩いていませんでした。

4. 現地での交流の状況

語学学校は時期もあって日本人が多かったことや、午前しか通っていない為、クラスメイトとそんなにたくさんの時間を過ごす事ができませんでしたが、その分ホストファミリーとたくさん時間を過ごす事が出来ました。

休日にはロンドンで有名なハロッズという大型デパートにも連れて行ってもらい、広すぎるため案内してもらいながら日本へのお土産をたくさん買う事が出来ました。私の両親へのお酒を、ホストファミリーが店員さんと色々話しながらおすすめの1本を決めてくれ、とてもうれしく思いました。

ホストファミリーだけではなく、どこに買い物や観光に行っても英語が得意ではない私に温かく接してくれる方ばかりでした。「勇気を出して聞けば、必ず笑顔でやさしく教えてくれる」。そう思いながら行動していたので、どこに行っても不安に思うことはありませんでした。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

現地での出来事全部が印象に残っていますが、企業訪問の際、ある方が私達にかけてくださった言葉がとても印象に残っています。「結局、好きな事をしている人には勝てないですよ。だから好きな事を見つけて、それを突き詰めていって下さい」という旨の言葉でした。人一倍もの大きな努力は好きなことだから出来る。好きな事を見つけるために1歩踏み出すことがいかに大切か。

単純なことであり、かつ重要なことをこのプログラムを通じて、改めて気付くことが出来ました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

やはり多文化への理解が深まった気がします。文化だけではなく、人には人それぞれの考え方があり、日本のような「暗黙の了解」や「こうあるべきだ」というものがここにはありませんでした。自分が思っている事をしっかりと声に出して伝えていくこと。「伝わるだろう」ではいけないということ。この大切さに改めて気づき、身についたと思います。

また私がこのプログラムの中で、一番楽しかった時間のひとつが「ホストファミリーとの夕食」でした。家族みんなでそろいながら食べ、今日学校でどんなことを学んだのか、どこに観光に行ったのか、おすすめは何かどこか、この英語の言い



回しが分からない、などなど、たくさん話題を夕食の時間に話していました。ホストファミリーはゆっくり私の話を聞いてくれ、すべてに優しく答えてくれました。今日面白かったこと、などが相手にも同じように面白かった話として伝わったときはすごくうれしい気持ちになりました。意思疎通がうまくいかないことはもちろんありましたが、この私たちの中で隔たっていると感じている壁は「文化」でも「住んでいる場所」でも「宗教」でもなく、ただ「言語」というたったそれだけなんだとその時感じました。「言語の壁」というのはとても大きなものではありませんが、それを乗り越えることさえできれば、もっと

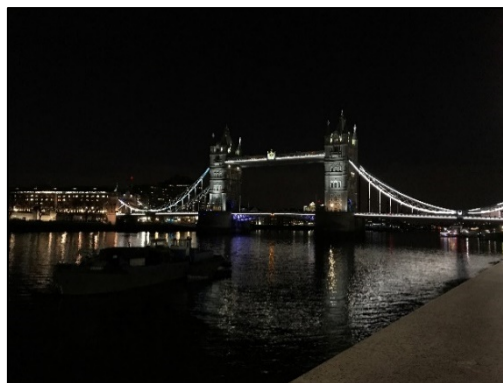
深く理解しあえるのだと思い、その薄いようで大きい言語という壁を乗り越えたいという思いを強く思うことが出来たのがよかったと思います。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

ロンドンは多種多様な文化の集まりの都市でとても居心地がいい場所でした。みんな違うからこそお互いを思いやり、理解しようという温かい気持ちであふれていました。島国のよく似た人の集まりである日本にいただけでは感じる事が出来

ない気持ちがきつとここにはあると思います。留学にすごく興味がある人も、少し行ってみたいというような興味本位の人でも、まず 1 歩を踏み出す事が大事だと思います。

春休み期間のたった 2 週間のプログラムです。短いことをマイナスに捉えるかプラスに捉えるかも、人それぞれだと思います。私は 2 週間という短い期間で多くのものを学んだと感じています。この素晴らしい経験や付きを、次代の方達にもっと大きなものにして感じてもらいたいです。



プログラム名 < 英国で学ぶ英語と日系団体・企業のビジネス > ④

国・都市名： イギリス（ロンドン）
名前： 森川 拓人
学科： 国際経済学科
参加時回生： 2 回生
参加時期： 2018 年 3 月 4 日～3 月 18 日

1. プログラム参加を決めた動機

私は、在学中に一度は留学をしてみたいとは入学時から考えていたものの、全く語学力が無く、留学は夢物語であると思



っていました。そんな私の留学に対する意識が変わったのは、2 回生の夏休みに留学ではないのですが、経済学部国内インターンシップに参加し、大学の講義では学べない経験ができ、学部のプログラムって面白いと感じたことと、一番は TOEIC 講座を受講するようになり、苦手だった英語に対する拒否感が少なくなったということがきっかけです。そして、2 回生の前期に卒業要件である TOEIC のミニマムを達成したことにより、留学にチャレンジしたいと強く考えるようになりました。

それではなぜ、このプログラムに参加したのかということですが、私は、海外に行った経験もあまりなく、短期間のプログラムに参加したい

と考えており、後期の経済学部の留学ガイダンスに参加したところ、このプログラムが今年できた新しいプログラムであることを知りました。ホームステイができ、しかもイギリスということで、映画「007」や BBC の「シャーロック」というドラマが大好きですし、EU 離脱について少しでも学べる良い機会であると考えました。またこのプログラムは、欧州三菱商事などの民間企業や、JETRO などの政府系機関を訪問することができるということで、海外で働くとはどういうことなのか、そして日本へ貢献されていることはどのようなことかについて考えてみたかったからです。

2. 授業・実習の内容

語学学校の授業は、レベル別にいくつかのクラスに分かれています。授業は、午前 9 時から午前 11 時 50 分までは、文法、リーディングを中心とした学習をし、午前 11 時 55 分から午後 12 時 45 分までは、リスニング、スピーキングを中心とした学習をします。教室には、色んな国の留学生が学んでいて、ペアワークやグループディスカッションをする機会が多く、一緒に問題を解いたり、自分の国について話し合ったり、スピーキングの練習をしました。授業で話す機会がとて多いので、すぐにクラスメイトとも仲良くなれます。とにかく講義内容は、大学の CW の授業よりも実践的な内容だと思います。授業内で積極的に発言をしないと、クラスを変えられるかもしれません。逆に、積極的に授業で発言をするとクラスが上がる可

能性があります。私は最初、語学学校のクラスは、下のクラスにいたのですが、積極的に授業内で発言をしていたので、先生に上のクラスに変わらないさいと言って頂き、上のクラスに行くことが出来ました。

午後からは、イギリスに進出されている欧州三菱商事、大阪ガス、JETRO、JBIC、在英日本商工会議所などを訪問したほか、立命館大学英国事務所、そしてロンドン大学にも行く機会がありました。特に、私が印象に残っている訪問先は、JETROであり、業務内容のほか、現在交渉中である EU 離脱によるイギリス国内経済の現状について、また日本経済への今後の影響、在英日系企業によるイギリス経済への貢献について、具体的なデータや資料等で解説して頂き、より一層 EU 離脱による影響についての関心が高まりました。



3. 生活（授業・実習以外の様子）

現地に着いた翌日の朝から語学学校が始まるので、通学初日は地下鉄の乗り方、降りる駅などに大変戸惑いましたが、2日通学すればすっかり地下鉄に慣れました。ホームステイ先から語学学校まで約15分から20分くらいだったので、大変アクセスが良かったです。語学学校は、駅前なので大変便利な位置にありました。地下鉄で電車の乗り換えなどで迷った時、駅員さんなどに聞くととても親切に教えてもらえるので心配はいりません。ちなみに生活面で大事なアドバイスは、ロンドンは公衆トイレが少なく駅にもないので、行けるときに行っておくべきです。また、ロンドンではカード社会なので、クレジットカードを持っているとどこでも使えたので、クレジットカードは必須です。

午前中は、語学学校での授業があり、午後からは企業訪問などタイトなスケジュールで、最初3日間くらいはすぐにホームステイ先に帰ることが多かったのですが、徐々に慣れてくると、スーパーマーケットに寄ったり、ちょっとした観光に行きました。休日には思いっきり観光しようと思い、語学学校のツアーに参加したり、地下鉄を使って、バッキンガム宮殿や大英博物館、ロンドン塔といった有名観光スポットを巡り、また私はシャーロック・ホームズが大好きなので、シャーロック・ホームズ博物館に行ったりと、とても毎日が充実していました。ロンドンは、どこでも観光名所と地下鉄の駅が近く便利なので、地下鉄さえ慣れれば、どこへでも行けます。



私のホームステイ先は、とても親切な人たちでしたし、また私のために部屋を用意してくださったり、バスルームがほぼ私専用だったので、とても快適に過ごすことができました。イギリスの料理は、あまり美味しくないと言われるので、どんな感じなのかなと思っていましたが、とても料理もおいしかったです。

私のホームステイ先は、とても親切な人たちでしたし、また私のために部屋を用意してくださったり、バスルームがほぼ私専用だったので、とても快適に過ごすことができました。イギリスの料理は、あまり美味しくないと言われるので、どんな感じなのかなと思っていましたが、とても料理もおいしかったです。

とても料理もおいしかったです。

4. 現地での交流の状況

語学学校のクラスでは、様々な国から英語を学びに来ている留学生が沢山いました。授業では、グループワークやペアになって問題を解いたり、話し合ったりする機会がとても多かったので、クラスメイトとはすぐに仲良くなれました。そのなかで、様々な国の文化についても教えてもらうこともできました。仲良くなったクラスメイトとは、放課後、ご飯を食べに行ったり、観光に行ったりして交流を深めました。ホームステイ先では、語学学校で学んだフレーズなどを積極的に使って話すようにしていました。ホストファミリーから、だんだん英語が上手になってきたよって言ってもらえてとても嬉しかったです。こんなにも、24時間英語漬けの日々を過ごしたことは人生で初めてのことであったので、とても貴重な経験ができたと思います。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

このプログラムを通して身についたと思うことは、2週間という短い期間ではありましたが、国民性など日本とは全く異なる文化を感じることができた点であると思います。イギリスは日本とは違い、色んな人種が集まっている国であると分かりました。また、語学面も少し向上したと思います。最初の1週間は、あまり英語を聞き取ることができず、ホストファミリーとの会話もあまりできず、申し訳なさまで感じていましたが、積極的に話しかけていくうちに徐々に聞き取れるようになってきたと感じましたし、何よりももっと話せるようになりたいと思う気持ちが強まりました。帰国後の今でもその気持ちは続いており、私にとって語学の学習面で良いモチベーションに繋がっています。また経済面では、実際にEU離脱について、JETROなどの訪問を通じて理解を深めることができましたし、離脱について語学学校の先生や、ホストファミリーにも聞いてみても賛成・反対と意見が分かれていたことが印象的です。

私は渡航前、ロンドンがスリが多いとよく聞いていたので、不安な気持ちで留学したのですが、実際行ってみるととても良い国でした。特に私が印象に残っている出来事は、観光で地下鉄に乗って帰ろうとした時、そこは全然知らない複雑な駅だったので、帰り方が分からなくて困っている時に現地の方が親切に声をかけてくださって、帰り方から地下鉄の乗り場まで案内してくださったことでした。本当に嬉しかったです。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

2週間という短い期間ではありましたが、語学学校での学習やホームステイの経験を通じて、一番は英語をもっと話せるようになりたいという気持ちが高まり、語学学習に対するモチベーションが上がったことだと思います。そして、日本とイギリスの異文化の違いなども肌で感じることができました。また、このプログラムは、実際にイギリスに進出されている日系企業などに訪問することもでき、実際に海外で仕事をされている日本人職員と現地採用の職員が共同で事業をされているところを見ることができ、海外で働くとはどういうことなのかについてイメージを膨らますことができ、より一層海外で働いてみたいと感じるようになりました。経済面でも、EU離脱交渉中のイギリスの国内事情や対外事情、さらには、日本企業によるイギリスでのビジネス展開で、日産・トヨタ・ホンダの存在感が大きく、イギリス国内で生産されている自動車台数の半数がこの3社で占められていること、原発事業や鉄道事業といった環境エネルギー分野やインフラ分野で日立製作所のイギリスへの貢献など、様々な日本企業がイギリスに進出しており、経済面・雇用面で重要な役割を担っていることも知ることができました。



スへの貢献など、様々な日本企業がイギリスに進出しており、経済面・雇用面で重要な役割を担っていることも知ることができました。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

このプログラムは私にとってはじめての留学で、ましてや旅行で欧米圏にも行ったこともなく、行く前はとても不安でしたが、いざ行ってみると日本との文化の違いなど、自分の知らない新しい世界を見ることができ、非常にいい刺激を受けたと感じます。また、実際に現地に行くことで日本国内からでは分からなかったことまで経験できたと思います。そして、何よりも語学に対する考え方が変わった

点が一番大きかったです。2週間ではありますが、プログラムの内容がとても充実しており、渡航前の自分と帰国後の自分は全く違うと感じると思います。英語が苦手でも全く心配はありません。私は英語が苦手であり、プログラムの初めのうちは文法など間違っていることが恥ずかしいと思いあまり話さなかった時もありましたが、せっかく留学をしているのにこれでは駄目だと思い、積極的に話しかけるようにしてみました。そうすると少しでも通じるとさらに話してみたいと感じるようになり、話していくとだんだん英語も聞き取れるようになってきて、毎日がとても楽しかったです。だから、失敗を恐れず積極的に話してみてください。きっと大丈夫です。やっぱり学生の間でしか、留学というものは経験することができないことだと思うので、積極的に参加してみてください。

プログラム名 < アブダビ石油株式会社アブダビ鉱業所 > ①

国・都市名： アラブ首長国連邦（アブダビ）
名前： 安東 佳子
専攻： 国際専攻
参加時回生： 3回生
参加時期： 2019年8月24日～年9月2日

1. プログラム参加を決めた動機

高校生の時に経済学部の説明会でこのプログラムがある事を知り、中東に興味があったので参加したい！と思ったのが最初のきっかけで、大学に入学後、様々な講義を受けている中でエネルギーに関する授業もありましたが、石油産業や中東について詳しく知る機会がなく、実際に訪れて自分の目で見てみたい！と思ったのが本格的にこのプログラムに参加しようと思った動機です。また、日本では馴染みのない石油について、情報が少なく、石油が加工されて「商品」として届く、完成した形でしか目にすることが出来ないため、その石油がどのように掘られているのかを知りたいと思った事と化石燃料を燃やすと少なからず地球に対して悪い影響を与えてしまう事実がありますが、私たちの生活と石油は切っても切り離せない関係で、そのような中で私たちに出来ることや石油との上手な付き合い方を考えたいと思いました。

2. 授業・実習の内容

実習では ADOC 内を見学し、各部署の業務内容の説明や ADOC のナショナルの社員の方々との懇談会などがありました。



また、ADOC の事業で使用される機材が置かれているムサファ工場の見学やサミット・JFE・BUNDOQ 様も訪問させていただき、工場見学や事業内容の紹介、ナショナルの社員の方とのディスカッションをさせていただきました。また、現地のカリファ大学にも訪問させて頂き、最先端の施設を見学し、日本とは違うキャンパスライフを実際に体感できたのも良い経験になりました。最終日には ADOC の社員の方々の前でプレゼンテーションを英語でさせて頂き、石油についての知識だけでなく、その他の企業様にも訪問させていただくことで、より多くの知識を得ることができ、かつ全ての事業が繋がっていることを実感することが出来ました。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

とにかく暑くて、日中は外に出るのが憂鬱なくらいの気温でした。実習はほとんど毎日、夕方までには終わっていたので、ホテルに帰って夜ご飯までは各々好きなように時間を使っていました。私の場合はホテルの近くのスーパーで買い物したり、近くのカフェでゆっくりしたり、ホテルから歩いていける距離に海があったので散歩したりしていました。ご飯はトルコ料理やイエメン料理など様々なお店に食べに行き、どれも美味しかったです。また、休日はみんなでアブダビ観光やドバイ観光をしました。ドバイではドバイモールでショッピングしたり、世界一の高層ビルにみんなで登ったり、砂漠に行ったりもしました。アブダビ観光ではグランドモスクに行ったり、エミレーツパレスに行ったりと実習以外もとても充実していて毎日がとても新鮮な日々でした。

4. 現地での交流の状況

現地ではナショナルの社員の方や日本人の社員の方と懇談会をさせていただいたり、各部署の方にお話を聞いたり、数

多くの方と関わる事が出来ました。ナショナルの方との懇談会は最初、とても緊張して、なかなか第一声を上げられずにいましたが、向こうの方が気さくに話しかけてくださり、すぐに打ち解ける事が出来ました。現地の方は日本の文化や教育に関心を持たれている方が多く、大学での勉強時間や勉強内容、日本での生活などを中心に質問される事が多かったです。私たちが働かれる目的ややりがいを知ったり、アブダビでの生活や文化、日本では馴染みないイスラム教についてなど幅広い質問をする事が出来ました。日本人の社員の方とは、日本とアブダビで働き方にどのような違いがあるのか、海外駐在で大変な事、嬉しい事、休日の過ごし方などお仕事に関する事から海外での生活に関する事など聞く事が出来ました。現地での交流で私たちが出発前から目標にしていた「沈黙の時間を作らない」を達成するために事前に質問を準備し、どんな時もハテナを持ち続けて、コミュニケーションに繋がれるように努力しました。最終日までには、廊下ですれ違えば挨拶出来るようになったり、向こうから話しかけてくださったり、最終日のプレゼンテーションにも多くの方が聞きに来てくださって、本当に素敵な方々と交流出来て、素晴らしい関係を築けたのではないかなと思います。

5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

このインターンシップを通して身についたことは、石油に関する知識はもちろんですが、自分からアクションを起こす力と



相手と話し、受け入れる力を身につける事が出来ました。現地では自分から質問しないと分からないままで、自分から意思表示をしないと相手もアクションを起こしてくれません。異国の地で自分から声を出して何かを伝えることは勇気のいることで、出発前の私は奥手でそれが少し苦手でした。しかし、分からないことを教えてほしいと伝えたり、自分の意見を伝えたり、相手へ自分の意思を伝える事が出来るようになりました。また、最終日には自分でお世話になった社員の方々にお礼がしたいと伝えて自ら会いに行き、感謝を伝える事もできました。きっと自ら動かなければ、このプログラムがこんなにも充実したものになっていなかったと思います。そして相手を受け入れる力は、日本で大学に通っていると、友達などのよく知った人達という事が多くて、なかなか新しい出会いは少ないと思います。しかし、アブダビでは毎日が新しい出会いの連続で様々な人と出会う事が出来ました。その中でそれぞれの方が様々なバックグラウンドを持っていて、私が出会った人にもシリアから来た人やムスリムに改宗された方など様々な方がいらっしゃいました。日本では出会うことのない人々との出会いは驚いたり、バックグラウンドを聞いて戸惑ってしまう事もありましたが、相手と話し、意思疎通をする事で相手を受け入れる力がより身についたと感じます。印象に残ったことは2つあり、1つは環境への取り組みです。石油会社と聞くと環境に悪そうなイメージや地球温暖化の原因の1つという考え方が多くありますが、ADOCでもサンゴ礁を守る活動やマングローブの植樹など環境に配慮したHSEの取り組みを多くされていて海外の企業の方が日本よりも環境への配慮や取り組みに真摯に向き合っていて、日本よりも活動が進んでいるという事実が印象に残りました。もう1つは、私がアブダビで出会った方に「いまだに多くの日本人は中東に対して危険なイメージを持っているのですが、それに対してどう思いますか？」と質問した時に返ってきた返答です。その方は日本に観光にいた時に顔を布で覆っているだけなのに怖がられたり、テロリストと勘違いされて離れられたりして、とてもショックだったと仰っていました。そして、「中東には確かに危険な国もあるけれど、でも安全な国もある。今なお紛争が解決していない地域があることをもっと知ってもらいたいし、アブダビのように安全で素敵なお国もあって、中東に対するイメージを覆すために訪れてほしい。」と仰っていました。私はこのお話を聞いてとても心が痛くなって、悲しくなったと同時に同じ日本人でも人の容姿やイメージで偏見や差別をする人がいることにとっても腹立たしく思いました。私もこの印象に残った出来事をもっと多くの人にシェアして知ってもらえるように活動していきたいです。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

まず1つは、日本で馴染みのない「石油」についての理解を深められたことです。どのように石油を見つけて掘って吸い上げているのかを実際に使われる機械を見ながら知ることが出来ました。そして、石油に関して様々な意見が交わされている今、エネルギーに関する新たな課題を自分なりの経験でさらに考えていきたいと思いました。2つ目は、海外で働くということがどのような事なのか実際に体感できた事です。海外駐在はもちろんやりがいがあり、周りから羨ましいと思われる事もあるようですが、実際の生活はとても忙しく大変で異文化の中で生活し、仕事をするには辛い場面もたくさんあると仰っていました。日本の働き方とは全く違い、様々な国籍の方に囲まれて仕事をする上で大切にされている事や、困難な事、やりがいとなる事を社員の方に実際に質問させていただいて、リアルな声を聞くことが出来ました。3つ目は中東に対するイメージをさらに覆すことが出来たことです。私の周りでも中東と聞くと「危険」や「テロ」といったネガティブなイメージを持つ人が多くいます。私はそんな周りの人に中東の魅力を知ってもらうために新しい中東の側面を発見したいと考えていました。実際に訪れて、現地の人々と触れ合っ、日本よりも安全で人がみんな優しくて、宗教やそれぞれの価値観を大切に出来る素敵な国だと知りました。そして、大切なことは相手の価値観や考え、暮らしや文化に敬意を払い、受け入れることだと学びました。人生観の変わる様々な経験を出来たことがこのプログラムに参加して良かったと思える最大の喜びです。これからは私もこのプログラムで知ったことを多くの人にシェア出来る人になりたいです。



7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

私は5人のメンバーのうち、4名が男子メンバーで女子は1名だけでした。最初は正直、大丈夫かな…と不安な気持ちもありました。でも、実際に参加してみて女性1人でも何も心配することはありませんでした。1人で参加するのはちょっとな…とためらっている方や女子は向いてなさそう…と心配している人がいれば、本当に何の問題も無いので自分の興味関心を大切にぜひチャレンジしてみてほしいなと思います。そして何より皆さんの目的を明確にこのプログラムへの準備を行ってほしいです。このアブダビでのインターンシップは準備すればするほど充実度も増していきます。皆さんがこのインターンシップを通して何を得たいか、何を学びたいか、目的は何かを明確に挑戦してほしいです。このプログラムは日本では絶対に経験出来ない内容が盛りだくさんで、行った人にしか経験できない素晴らしい経験が出来ます。そんな素晴らしい経験から、さらに考え方や感じ方もガラッと変わる、そんなプログラムです。そんな人生観を見つめ直す、変える経験をしてみたい！という好奇心旺盛な方にぜひ参加してほしいです。

プログラム名 < アブダビ石油株式会社アブダビ鉱業所 > ②

国・都市名： アラブ首長国連邦（アブダビ）

名前： 山内 康平

専攻： 国際専攻

参加時回生： 3回生

参加時期： 2019年8月24日～9月2日

1. プログラム参加を決めた動機

私が本プログラムへの参加を決めた理由は、3つありました。それぞれ、「中東世界への知見拡大」、「グローバル力かつ発信力の体得」、「HSE(アブダビ石油のプログラム)活動への理解促進」ができるからです。

1つ目、「中東世界への知見拡大」を望んだ理由には、「ちゃんと自分の目で見たい！」と思ったことに始まります。高校の世界史で世界交易の中継地である中東に興味を抱いて以降、中東とはどんなところなのだろうという漠然とした知的好奇心がずっとありました。中東は、世界の重要地域の一つであり情勢変動もめまぐるしいですが、私たち日本人、特に若い世代にはあまり馴染みがなく、そして理解も希薄です。例えば、イスラームという言葉を聞くだけで「恐怖」のイメージを抱く人も多く、そのような偏見を体験でもって払拭し、日本へと持ち帰りたいと思いました。

2つ目、「グローバル力かつ発信力の体得」を目的とした理由は、将来、「海外勤務」を望んでいるからです。海外で働くには、自らの意見を物怖じせず発信できる能力が不可欠です。そのために英会話力の向上に励んできたので、是非、この場でその成果を発揮したいと考えました。同時に、社会人になった後を見据え、海外の方々と積極的にコミュニケーションを取ることで、日本人にはない考え方や文化を吸収したいと思ったことがこの2つ目の理由に繋がります。

3つ目、「HSE 活動への理解促進」に興味を持った理由は、それを実施している組織が石油会社だからでした。石油と地球温暖化に因果関係があるかどうかの真実は別として、これら2つは不可分に結びついています。そんな現状で、HSE (Health, Safety & Environment) という事業活動に伴う労働安全衛生問題や環境問題に対する取り組みをしており、具体的な取り組み内容や責任、将来の展望などへの理解を深めたいと考えました。現在では世界中の多くの企業が CSR を行っていますが、この活動趣旨に近いものがあると考えており、HSE は特に地球全体に対する貢献であるためぜひ学びたいと思いました。

以上、3つがアブダビ石油株式会社インターンシップに応募した理由です。また、ここで学んだことを残りの学生生活や就職後も活かしていきます。

2. 授業・実習の内容



研修初日は各部署へのご挨拶とアブダビ石油株式会社についての概要や詳細説明、見学が行われました。また、午後に若手日本人社員とのディスカッションが行われ、積極的なコミュニケーションが求められました。楽しかったです。2日目の午前には、8つの部署についての詳細説明が行われました。この段階でアブダビ石油株式会社の各部署について一定程度理解しました。午後は JOGMEC に訪問し、アブダビ石油との関りやビジネス内容を理解しました。3日目は JFE を訪問し、実際に現場で使用する機械の製作方法と役割を工場見学のなかで理解できました。午後は UAE 国民の社員とディスカッションを行いました。ここではシャイにならずに話したものの勝ち！4日目は、ムサファ(アブダビ石油の倉庫)を見学し、2日目に理解した掘削機の仕組み等をより深く学びました。午後は、BUNDUQ、日本大使館を訪問し、大使の貴重なお話を伺う機会がありました。最終日は Summit を訪問し中東で食品商社を展開することについて、日本との比較やその難しさについて理解を深めました。また、Khalifa 大学にも訪問し最先端の理系技術等を目にすることができ知見が広がりました。最後に5日間で学んだことをインターン生それぞれが発表し、フィードバックを頂きます。ここまでが実習の内容です。

3. 生活（授業・実習以外の様子）

アブダビと日本を比較すると多くの違いがあります。まず1つ目、UAE 国民の方々は非常に優しく接してくれます。他愛もない話でも楽しく会話できます。日本人学生への興味も高いそうなので、実習以外でも積極的に話すことをお勧めします。2つ目は、何を言おう、やっぱり暑い！45℃ぐらいの時が何日かありました。お水をこまめにとれば問題ありません。それよりも注意すべきなのは、室内気温と外気温の差です。現地では、外は暑く、室内は冷房ガンガンです。長袖の羽

織り物を持参することをお勧めします。3つ目は宗教に対する理解です。一口にムスリムといっても敬虔な方もいれば、案外、そうでない方もいます。しかし、私たちは日本からの一見客なので、宗教に関する点は、現地社員の方々の言葉を順守しておけば全く問題なく、楽しく過ごせます。最後に、実習以外でも社員の方々やアブダビ石油株式会社の関連企業の方々とお食事などすることができます。実際に海外で働くとはどういうものか、業界について、プライベートなお話、なんでも応えてくださいます。貴重な機会ですので、是非、将来への視座を高めてください！

4. 現地での交流の状況

前述したように、アブダビ石油の社員の方々や、関連企業の方々など現地でバリバリ活躍なさっている多くの方々と話す機会があります。ここで享受できる知見の大きさは、このプログラムならではですので、本当に積極的にお声かけしてみてください！！皆様の志望業界が違って、アブダビの日本人コミュニティは強固ですので、他業界の方々ともお話しできます。また、私たちはインターンシップメンバーでモスク、ブルジュ・ハリファ、サファリ(砂漠)など自由時間を使って観光もしてきました。日本には無いもの、感じられないものが現地にはあります。それも1つの学びですので是非、足を運んで楽しんでもらいたいです。



5. 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと

身につくことはたくさんありますが、私は「広い視野」と「コミュニケーション能力」を獲得しました。本研修では、石油会社の事業内容や考え方を知ると同時に、1つの会社としてどのような企業と提携しているのか、また、提携会社を知ることにより石油業界にとどまらない広い視野を体得することができます。私は石油業界にほとんど無知な状態で飛び込みましたが、充実したインターンシップを通して石油業界に理解が深まった上、他業界の企業へ訪問することも多く、それら業界や企業、また奮闘する方々の考え方で知ることができました。しかし、それ以上に重要なのがコミュニケーションを取ろうとする姿勢です。現地の方は日本人の学生に非常に興味を持っている上、プレゼンテーションも丁寧に発表していただけます。その際に、率先して挙手し、質問することなどを心がけました。コミュニケーション能力といっても、大事なのはただ発信することだけではありません。よく「聞く」こと、わからないことは質問する「素直さ」など、それらを含めてコミュニケーション能力だと思います。アブダビでのインターンシップにおいて意識的に取り組んだこれらの姿勢が現在、就職活動で役に立っています。この姿勢はアブダビや日本だけでなく世界どこへ行っても基本的に同じように求められ、その積極的な姿勢が尊重を生み、良好なコミュニケーションに繋がることを学びました。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

私が当プログラムに参加して最もよかったと思うことは、「視座が高められた」ことです。何度も述べるのですが、実際に海外で働く方とお話できる機会は非常に貴重ですし、JFEさん、summitさん、大使など他業界の方々からもたくさんお話を伺うことができます。また、元々興味の薄かった石油業界に関心を抱けたことは、私の将来の視野を大きく広げました。2つ目は、「コミュニケーションへの積極性」が高められたことです。これは、渡航前から目標にしておき、インターンシップ期間中は常に意識していたことです。意識し



ていたからこそという側面と、国民の方の優しさのおかげで、臆することなく積極的に会話する回数が増え、将来の海外勤務に向け、1つの準備になったと思います。このような将来を見据えた上で必要な能力を身に着けることのできる点がこのプログラムの1つの大きな魅力です。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

海外で働きたい、英語力を伸ばしたい、石油業界に興味がある、中東を知りたい。私は、動機は人それぞれ、何でも構わないと思います。ただ、求められることは1点、「物怖じせずコミュニケーションをとろうとする姿勢」です。その有無で体得できる経験値は大きく変わってきます。この姿勢は、留学プログラムを含む様々な活動に興味がある全ての方に当てはまります。私が最も言いたいことは、「経験したものの勝ち」ということです。百聞は一見に如かずとよく言いますが、まさにその通りで、経験は何にも代えられないと思います。アブダビ含め中東に実際に足を運んで実情を知ったからこそ、理解し人にも話すことができます。そして一つ一つ経験を積むことで、自らの知見を広げることができます。知見を広げるということは自分の中の価値尺度を増やしていくということです。価値尺度が多様化すれば、多くの人とのコミュニケーションが円滑になります。ますますグローバル化は進行し、相手の考えや文化、価値観などの確に把握してコミュニケーションを取る能力は必須です。そのための準備にもなります。

カンボジアの農村部に私の支援した中学校があります。その村の子供たちに夢を聞いた結果、約100人全員が警察官と学校の先生のどちらかを回答しました。これは彼らがその二択以外の職業を知らないということです。その選択肢の少なさが視野を狭めます。そのため、子供たちの知見や夢を広げることを目的として、職業体験を行ってきました。消防署や市役所、自動車整備場などを訪問し、実際に職業を見て、感じて触れることで、子供たちの選択肢は爆発的に広がります。実際に、職業体験時と同じ職業についての卒業生もおり、“知る・体験する”ことがより自分の可能性を広げることを証明しています。これが「視座を高める」ということです。経験してみてください。長くなりましたが、このプログラムへの参加は自らの将来の選択肢を広げる一助となります。興味を持ったなら是非、参加してみてください。

プログラム名 < アブダビ石油株式会社アブダビ鉱業所 > ③

国・都市名： アラブ首長国連邦（アブダビ）
名前： 伊藤 楓
学科： 国際経済学科
参加時回生： 3回生
参加時期： 2018年8月25日～9月3日

1. プログラム参加を決めた動機

- ・異国の地に足を運んでみたいという好奇心
- ・ゼミでの研究を踏まえ、現地・現物を見て学習を深めたかった (SDGs、CSR、etc)
- ・選考があり、自分の面談する能力を試したかった
- ・新しい人、新しい出会いを求め、新しい価値観を形成したかった
- ・留学に参加していた経験があり、留学で達成できなかった目標を再チャレンジしてみたかった (勉強面、人間関係面など)。
- ・将来、グローバルに働ける人材になるため、海外での働き方を知る必要があると考えた。働くこと以外にも私生活での過ごし方や、体験談を通して、なまの声を聞きたかった



- ・想像しているものと現実のギャップを埋めたかった
- ・海外が好きだから（観光目的:大）
- ・アラビア人の人と英語で話してみたかった

2. インターンシップの内容

- ・会社説明・各部署の詳しい内容
- ・社員懇親会・交流会
- ・他社訪問
- ・お客様の仕事を知れる
- ・日本大使館訪問
- ・英語プレゼンテーション

3. 生活（授業・実習以外の様子）

- ・ホテルに泊まり、朝食を食べてから出勤
- ・インターンシップ後、生徒らで観光
- ・パブで飲み食い
- ・近くのスーパーで買い出し
- ・土日はドバイや砂漠ツアーに参加した

4. 現地での交流の状況

- ・現地社員と現地で働く日本人社員がいて、とてもフレンドリーに接して下さる
- ・食文化を通して、交流を深めることがメイン
- ・基本的にはインターンシップ生でずっと動いている感じなので、変に緊張することなく毎日過ごしていた

5. インターンシップを通して身についたこと・印象に残ったこと

- ・世界って、まだまだ知らないことが沢山あるなーって率直に思った。
- ・海外への適応力
- ・幅広いジャンルの人と密にコミュニケーションを取れるコミュカ
- ・物事を俯瞰的に見る力を養える、また矛盾するようだが、本質を見抜く力を養える
- ・仕事をすることの意義・夢を持つことの大切さ
- ・教授などを含め、いろんな大人の方と話したことが印象的である

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

とても良くて、毎日充実していた。

- ・各部署の説明は、就活をしている今、とても役に立っているし、早い段階でどういった部署や仕事を知れたことは、自分自身の適正な仕事が変わってきたりする。
- ・アブダビ石油さん以外の会社とお話や訪問もできたことで、より仕事の具体性が見えてきたりした。中でも、もう一つの石油会社の訪問では、競合他社を理解する意味では、すごく意味があると思う。それぞれの会社の強み、弱みを知ることができ、比較することで、会社の良さがよりわかってくる。
- ・インターンシップ生で過ごすご飯の時間や寝泊りもいい思い出。楽しすぎました。
- ・最終日に向けて制作したプレゼンに向けて、学んだものをしっかりと英語プレゼンしないといけないが、通過儀式のような

ものだと思って、楽しむことができた。でも、真剣に取り組むからこそ、楽しさを見出せる。

・観光。最高です。とにかくいろんな所に周っては、飲み食い、沢山笑いました。迷子にならないようにだけ、注意しましょう。みんなに迷惑をかけちゃいます。

・ご飯がめちゃくちゃうまいです。個人的に朝のビュッフェは最高でした。カレーとチキンが特にうまいです。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

・若いうちに沢山挑戦して、沢山失敗した方が、大人になってから恥ずかしくならないと思います。アラブの黄金の砂を浴び、アラブの灼熱の太陽を浴び、現地を堪能してください(笑)。

・社会人としての自覚を持てるいい機会になっていると思うので、参加してみたいかと思いますが。

・将来、海外で働きたいことを目標にしているのであれば、参加すべき！現実世界をご自身で感じてみてください。

・観光がめちゃめちゃ楽しいです！みんなと仲良くできたら、尚、グッドです！

・ホテルの屋上にプールあるので、時間があれば入ってみては？自分は水着を持ってなかったので、後悔。

プログラム名 < アブダビ石油株式会社アブダビ鉱業所 > ④

国・都市名： アラブ首長国連邦（アブダビ）

名前： 藤本 裕大

学科： 国際経済学科

参加時回生： 4回生

参加時期： 2018年8月25日～9月3日

1. プログラム参加を決めた動機

私がこのプログラムに参加をしようと考えたのは、石油業界などのエネルギーに関する事柄に興味があり、実際に中東のアブダビという土地で、日本企業と現地企業がどういった活動を行っているのかを自分の肌で感じたいと思ったからです。また、将来的に仕事として関わる予定の業界であったため、そういった観点からも自分にとって有意義な経験となると考えたからです。

2. インターンシップの内容

- 現地日本企業による部門、現地駐在社員から仕事内容の紹介
- 現地 UAE 企業訪問、現地 UAE 社員との懇談
- 現地駐在社員との懇談
- 日本大使館訪問
- 現地工場訪問と現地ローカル社員からの仕事内容説明
- 現地駐在者や UAE 現地社員へのプレゼンテーション

3. 生活（授業・実習以外の様子）

- 気温→中東ということもあって、湿度も高く非常に暑かった。そしてとにかく日差しが強い。しっかり水分をとることや、サングラスや日焼け止めなどを使って日差しを防ぐことは不可欠であると思いました。
- 治安→UAE は国民に対する UAE 国民の比率が非常に少なく、インド系などが多いにもかかわらず、治安は非常にいい。犯罪が起きにくい環境が整っていると感じた。車のスピードは、早すぎるほどなので注意が必要。
- 物価→中東、UAE、ドバイなどと聞くと、富裕層が多く生活するにはお金がかかるようなイメージを持つと思う。しかし、全てがそうだとは感じなかった。地元のスーパーマーケットなどは比較的安価であった印象。

4. 現地での交流の状況

現地では、訪問企業において、現地日本人駐在員、現地 UAE 社員、工場などの外国人労働者などとも会話や質問を通じて交流を深めることができた。その人たちの生活環境や仕事内容などざっくばらんに聞くことができ、非常に有意義な時間となった。相手も日本のことに興味を抱いていたので、日本のことについてその文化や風習などを話せるようになっておくとコミュニケーションが取りやすいと思う。また相手やその土地の政治、経済、宗教、環境などの知識を持っておくことは非常に大切であると感じた。注意を払えば、政治状況や宗教のことなども聞くことで勉強になる部分は多く、そういった面は日本では得られない貴重な経験だったように思う。

5. インターンシップを通して身についたこと・印象に残ったこと

一つ目は、石油開発に関する知識が大幅に増えたことです。インターンシップに参加する前には知ることのできない情報を知ることができ、大変有意義な時間であったように感じます。石油開発というと、採掘しそれをタンカーで日本に運ぶ、そして、各ガソリンスタンドなど油を必要としている場所まで配分されているといった印象を持っていました。しかし、実際には非常に複雑かつ様々なステイクホルダーを巻き込んで行われているものであると知ることができました。例えば、アラブ首長国連邦現地で石油を開発するには政府からの権益を得る必要があり、その権益は石油会社にとって何よりもかけがえのないものであり、石油会社は重要なそれを得るために、政府や民間銀行などを巻き込んで、必死に活動していることを知りました。さらには、権益獲得以降も、採掘のため、人工島を自ら形成し、地震波で油田を探し、何キロもの穴を掘り、撮った油田を精製するといった非常に複雑かつ大規模な工程がいくつもあることを知ることができました。こうした得られた気づきはニュースや新聞での二次情報による表面的な知識ではなく、自らが現場に出向き、事前に用意した内容と比較することで得られた貴重な情報であると思います。

二つ目は、UAE 現地の多文化の環境とそれを理解することの大切さを学びました。インターンシップに参加する以前は、UAE のイメージとして、中東、危険、裕福、などを抱いていましたが、実際に行ってみるといくつかの差異がありました。一番に驚いたことは、UAE 現地での多文化の環境についてです。現地 UAE 日本大使館を訪れた際、えられた情報によれば、UAE の現地国民は全体の 10~15%であり、多くはインド、パキスタンで約半数を占めていました。街中を見渡してもそのような人種が多く、まさに多文化・多国籍国家であったように感じました。特に、現地アブダビ石油株式会社ではそういった多文化の環境が仕事内容と直結しており、直近の課題ともおっしゃっていました。英語を用いたコミュニケーションが誤解を招いてしまうことや、宗教的には触れない方がよいとされる内容に気を配るなど、働く仲間に配慮することは非常に苦労している印象でした。

6. プログラムに参加してよかったと思うこと

UAE の現地の企業にお邪魔し、多くの時間を使って、たくさんの発見や学びを得ることができたことは非常に有意義な経験だったように思います。中東といった日本人にとっては馴染みのない国のことも、石油業界といった一般人には馴染みのない業界のことも、アブダビやドバイなどの施設訪問、現地の社員との交流、日本大使館への訪問などを通じて、自分の肌で確かめることができました。このようなプログラムはどこの学部をとっても見当たらないほど、貴重な経験だと思いますし、私は、自分の人生

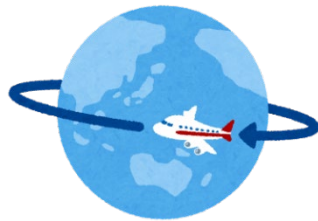


にとって大きく意味のあるものだったと確信しています。また、少人数であったために、一緒にプログラムに取り組んだ仲間、引率してくださった先生や職員の方、現地の日本人駐在員、現地 UAE 社員の方々など、話し合い、食事、休日の行動など

を通じて非常に交友関係を深めることができたことは良かったと思います。そういった環境だからこそ、いい意見が生まれ、たくさんの質問が飛び交うなど、有意義な時間を過ごすことができたのだと思っています。

7. 後輩へのメッセージ・アドバイス

エネルギー業界に興味がある、将来海外で働きたいなど、何か少しでも思いがある人にはこのプログラムは非常にオススメです。また、大学生活でいろんなことをしてみたい、就職や進学など将来を考えるきっかけにしたいなどという人にとっても、非常にいい経験となると思います。ぜひプログラムに参加する際には、気になったことはなんでも質問し、主体的に意見を発表するなど、積極的な取り組みをしてみてください。そういった環境ができれば、非常に有意義な時間が過ごせると思います。応援しています。



経済学部海外留学プログラムに関するお問い合わせは経済学部事務室まで

参照：<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ec/kaigai/renewal/Renewal%20page.html>

manaba+R → 「経済学部生のページ」 → 「留学・外国語学習 コンテンツ」

→ 「海外留学プログラム【学部独自プログラム】」